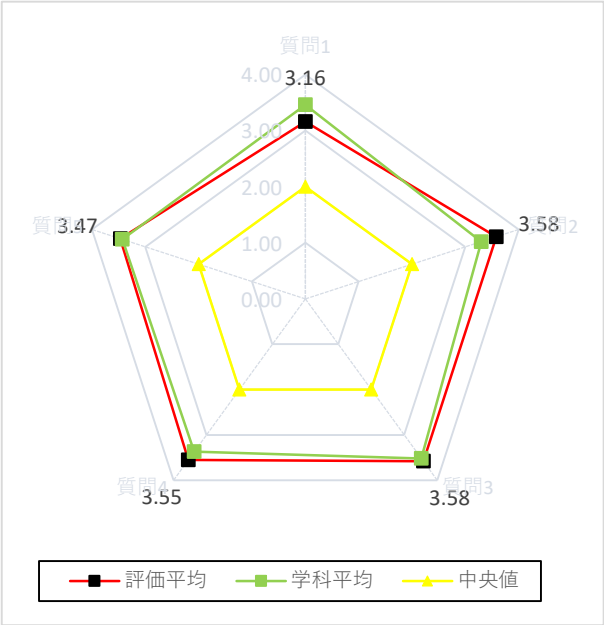
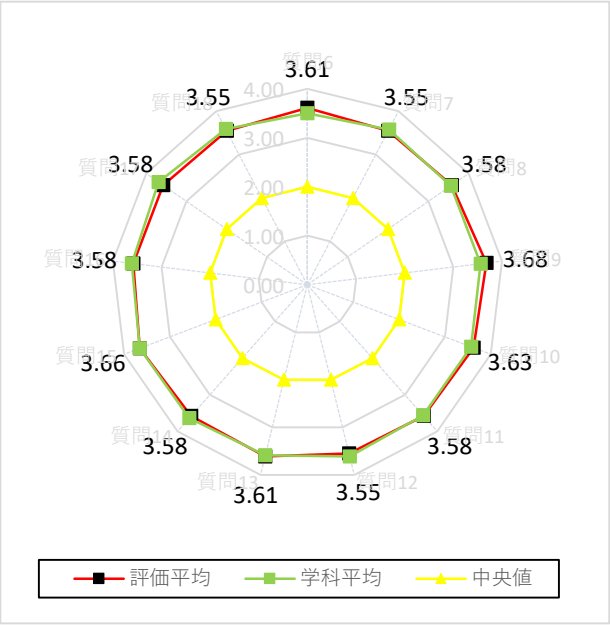
学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		あすなろう（初年次教育含）	50名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

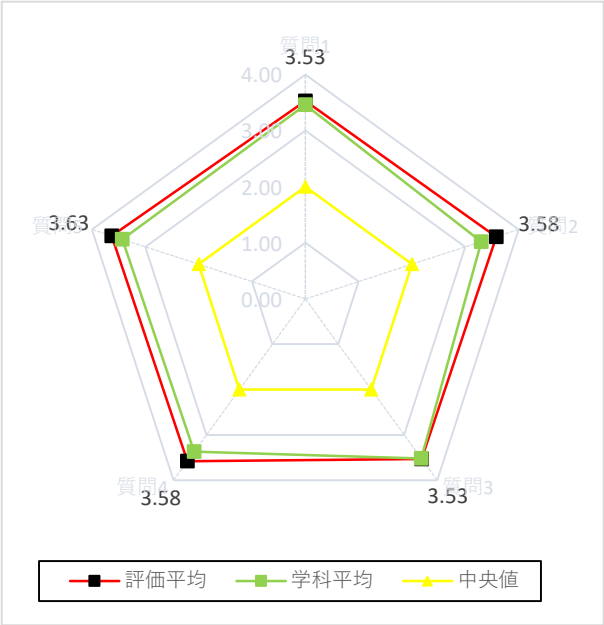
・学生自身が講義に臨む態度は概ね良好であった。
・一方で，意欲に欠ける学生も認められた。個別に指導することで受講態度の修正を試みた。

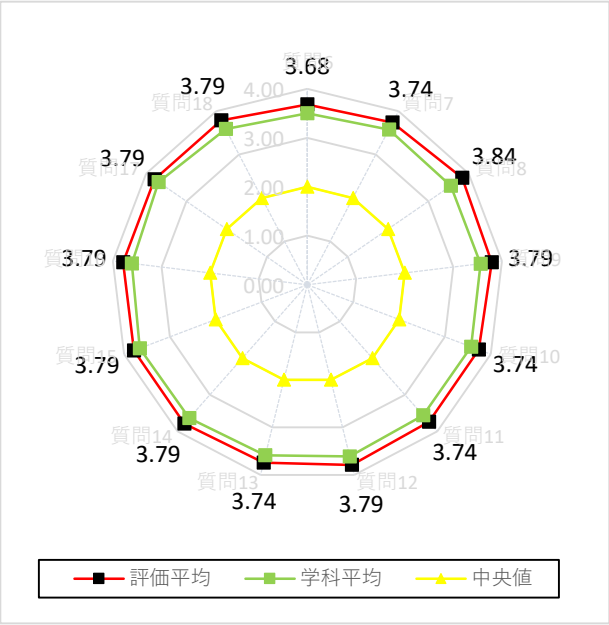
（３）次年度に向けての取り組み

次年度より講義形式が変更される予定。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		あすなろう（初年次教育含）	22名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

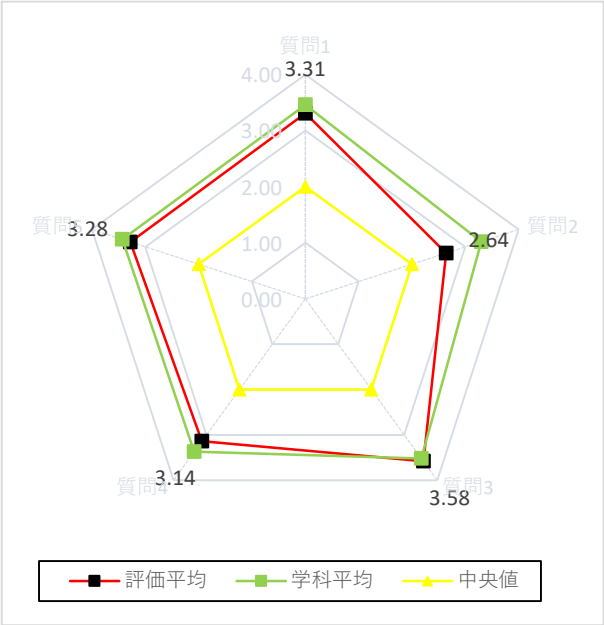
すべての質問項目において、学科平均もしくはそれを上回る評価点数であった。

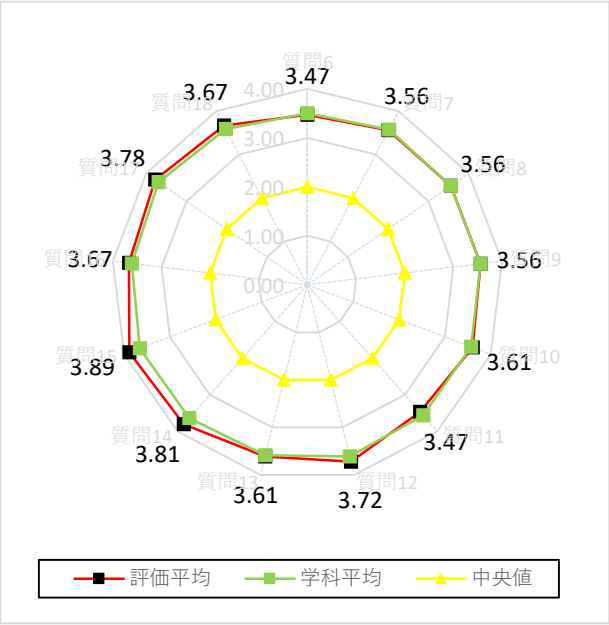
（３）次年度に向けての取り組み

引き続き、同様の関わりを行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		英語コミュニケーションⅠ	37名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

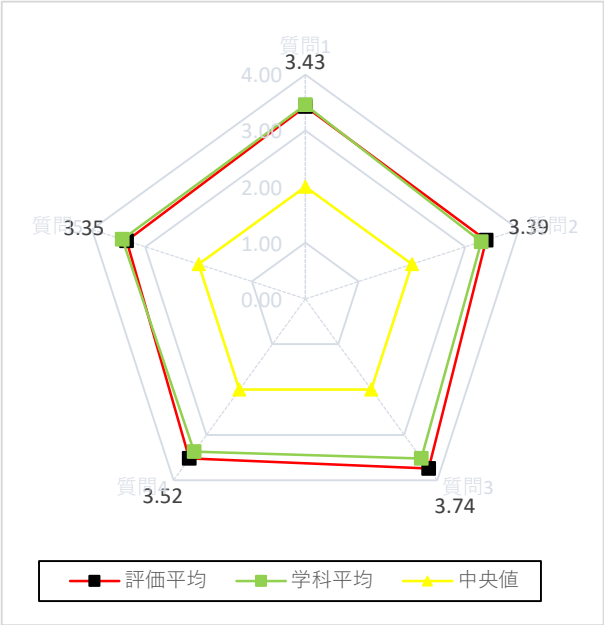
平均と同じぐらいのレベル。シラバスをいつも紹介するが、毎週毎週次回の授業について案内するので、シラバスを活用する必要はないと解釈する。

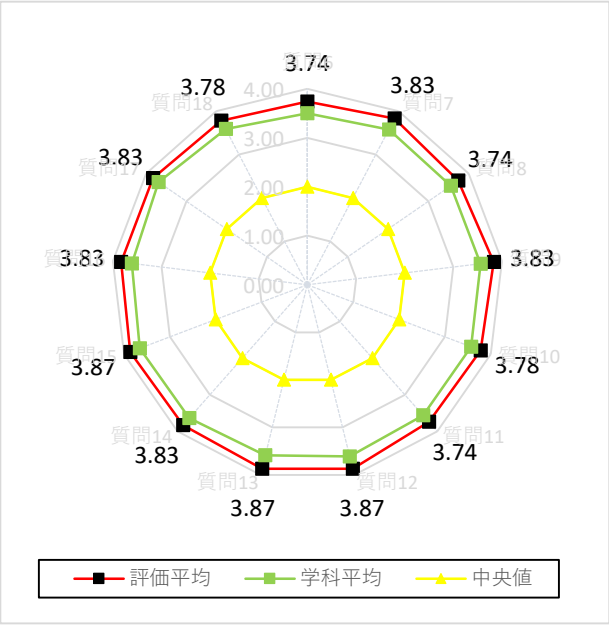
（３）次年度に向けての取り組み

次回から英語コミュニケーション1とⅡは学会別でなくなるので、より広い数の学生に教える方法ややり方を探る予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		英語コミュニケーションⅡ	23名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

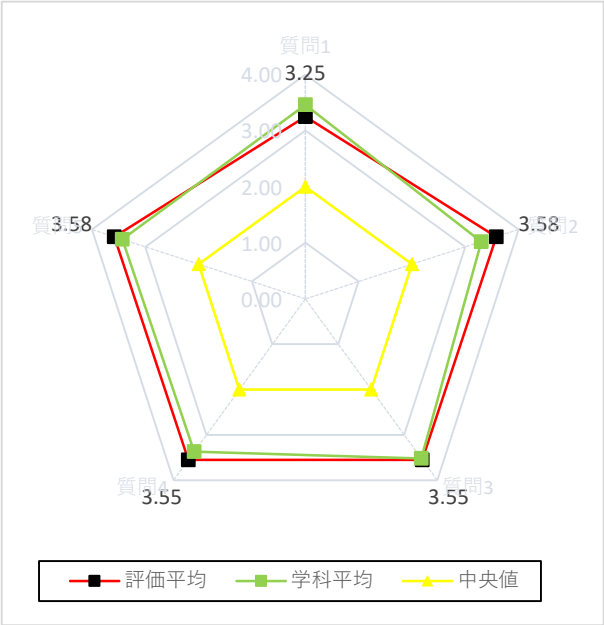
平均より高いレベル。シラバスをいつも紹介するが、毎週毎週次回の授業について案内するので、シラバスを活用する必要はないと解釈する。

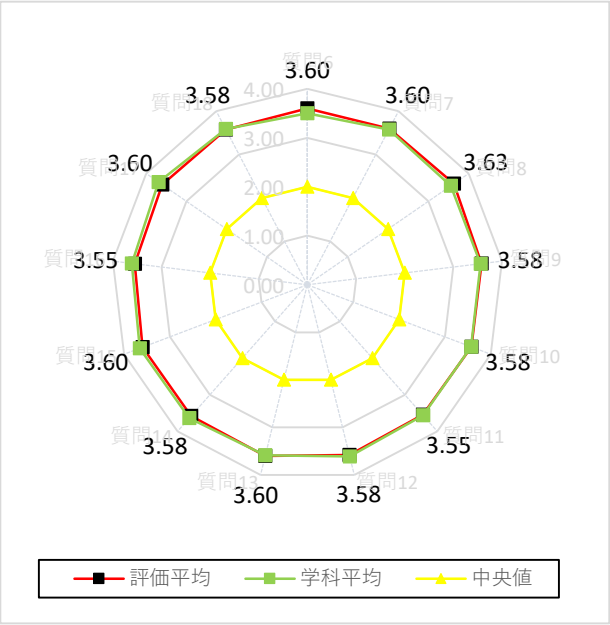
（３）次年度に向けての取り組み

次回から英語コミュニケーション1とⅡは学会別でなくなるので、より広い数の学生に教える方法ややり方を探る予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		データサイエンス演習	50名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

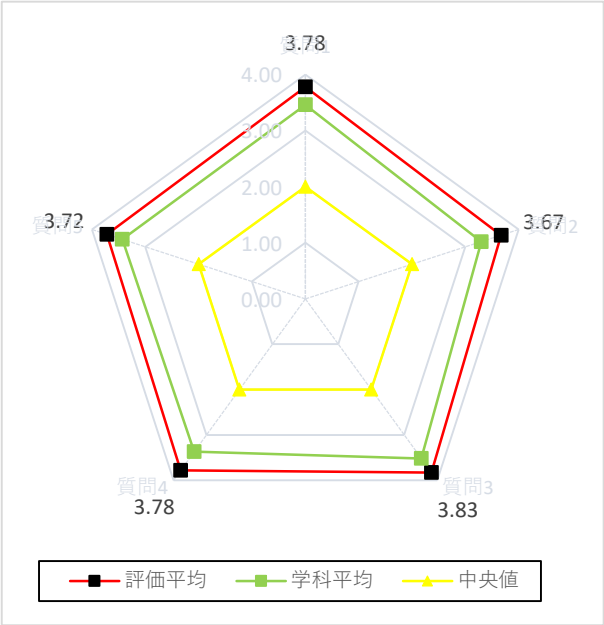
・学生自身が講義に臨む態度は概ね良好であった。
・一方で，意欲に欠ける学生も認められた。個別に指導することで受講態度の修正を試みた。

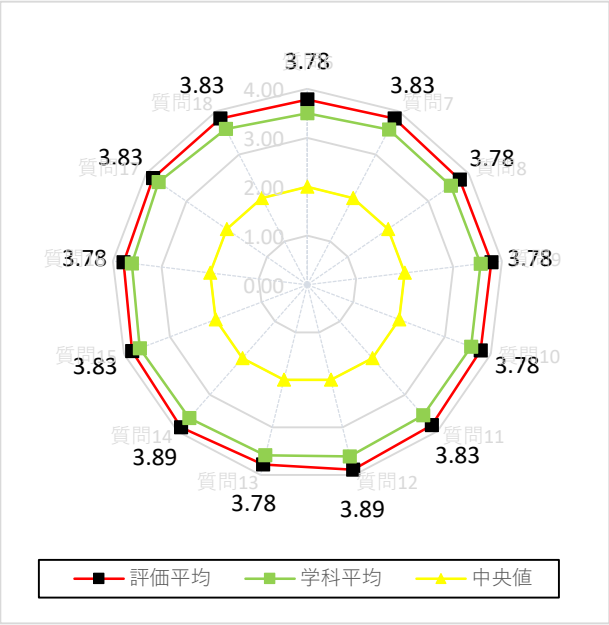
（３）次年度に向けての取り組み

次年度より講義形態が変更される。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		データサイエンス演習	22名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

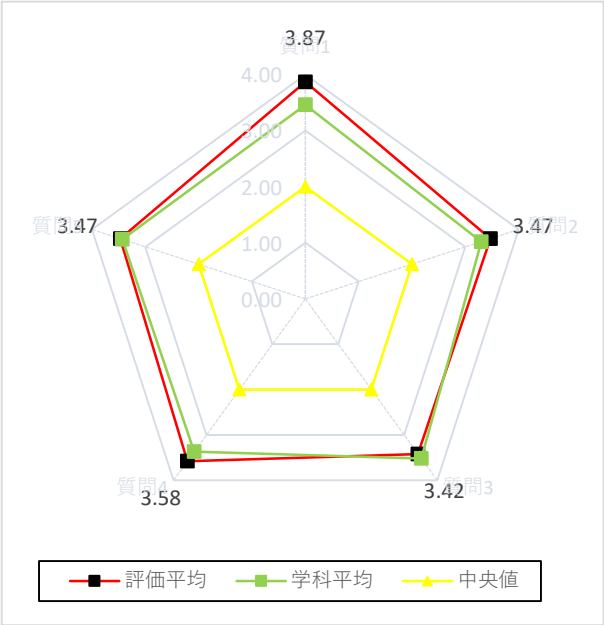
すべての質問項目において、学科平均もしくはそれを上回る評価点数であった。

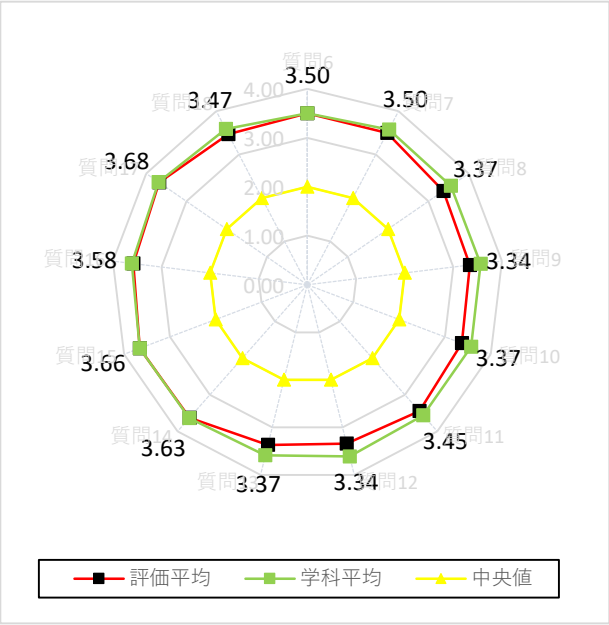
（３）次年度に向けての取り組み

引き続き、同様の関わりを行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		解剖学Ⅰ	74名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

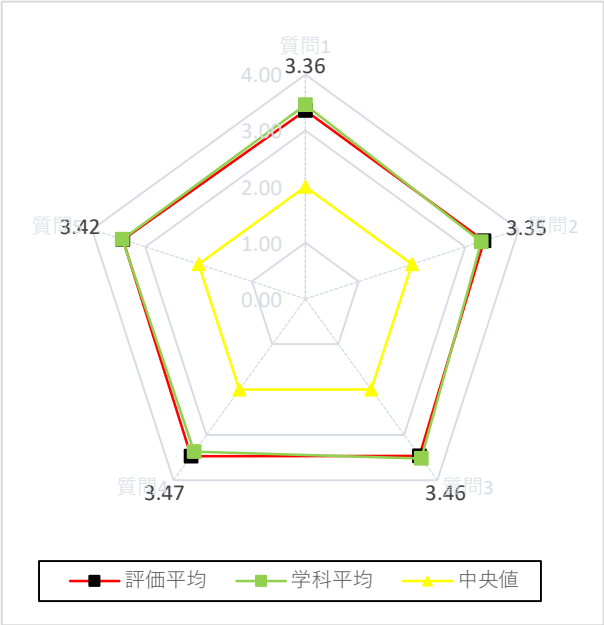
シラバスを用いて授業計画を徹底にする必要がありました。
授業をよりよくするための工夫を感じました。

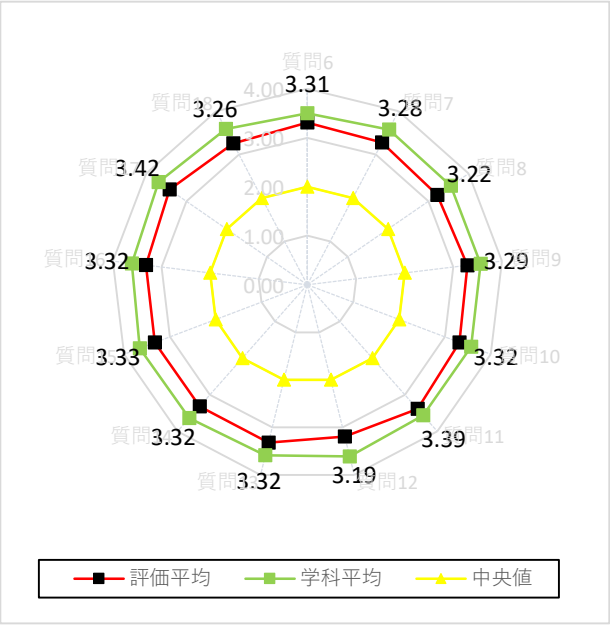
（３）次年度に向けての取り組み

シラバスを用いて授業計画を徹底にするとともに、授業中の私語・居眠りにも真剣に取り込みます。
さらに、より良い授業をするために常に学生の意見に耳を傾き、柔軟かつ丁寧に対応していきます。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		解剖学Ⅱ	85名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

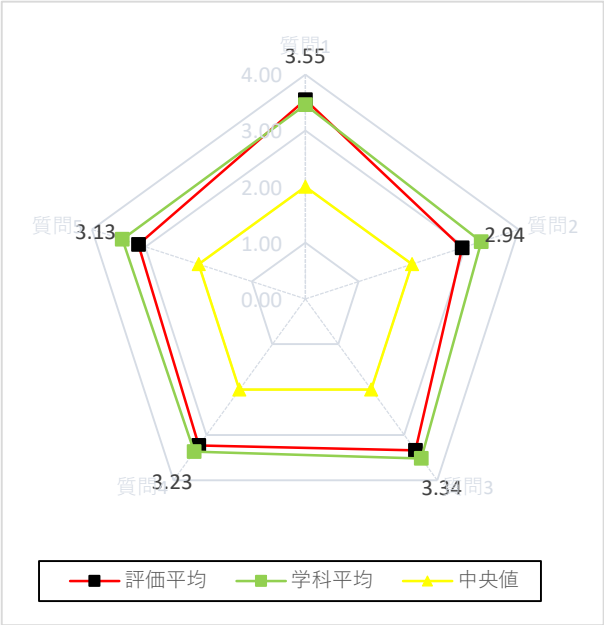
欠席者管理とシラバスを用いて授業計画を徹底にする必要があります。
全体的により良い授業をするためにさらに工夫する必要性を感じます。

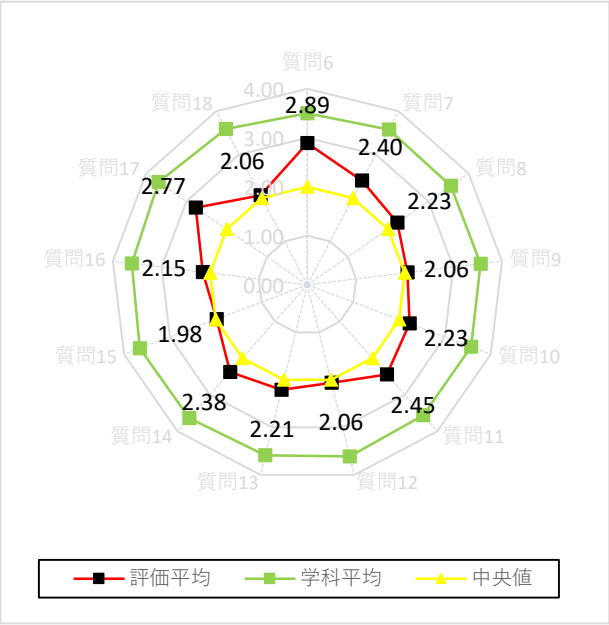
（３）次年度に向けての取り組み

シラバスを用いて授業計画を徹底にするとともに、授業中の私語・居眠りにも真剣に取り込みます。
さらに、より良い授業をするために常に学生の意見に耳を傾き、柔軟かつ丁寧に対応していきます。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		解剖学実習	59名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

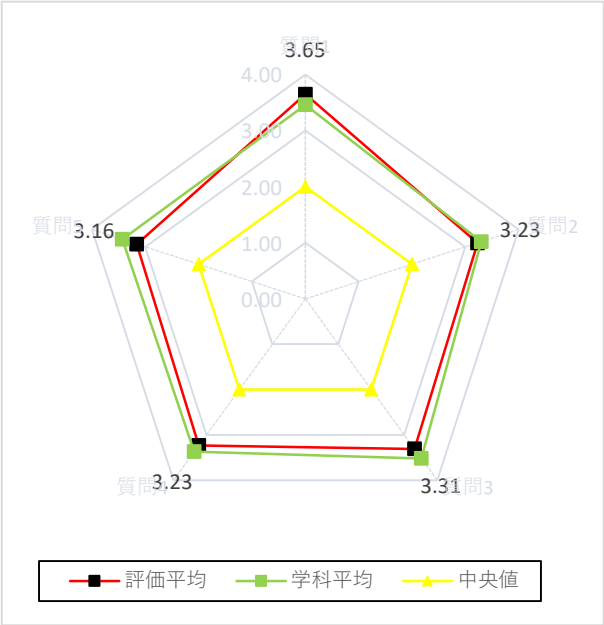
教員一人で同一授業内で2教室の2クラスを交互にする限界があり、シラバスを用いて授業計画を徹底にするとともに、積極的に授業を参加させるための環境設定が必要と感じます。

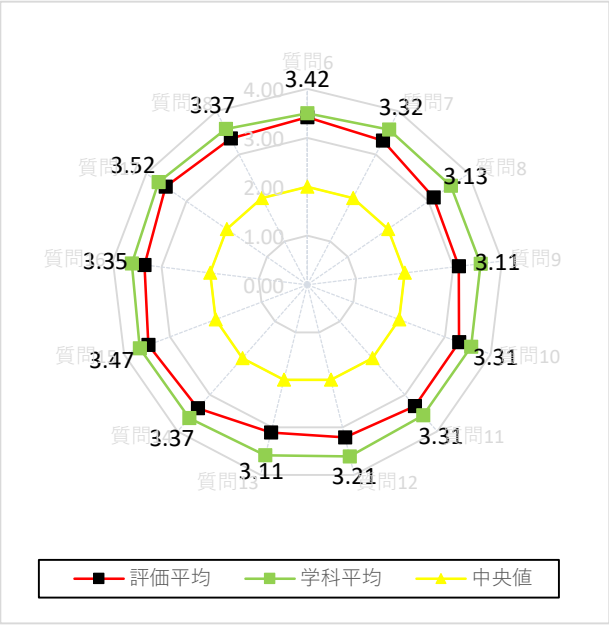
（３）次年度に向けての取り組み

助教の協力を得ながら、より良い授業をするために常に学生の意見に耳を傾き、柔軟かつ丁寧に対応していきます。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学Ⅰ	79名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

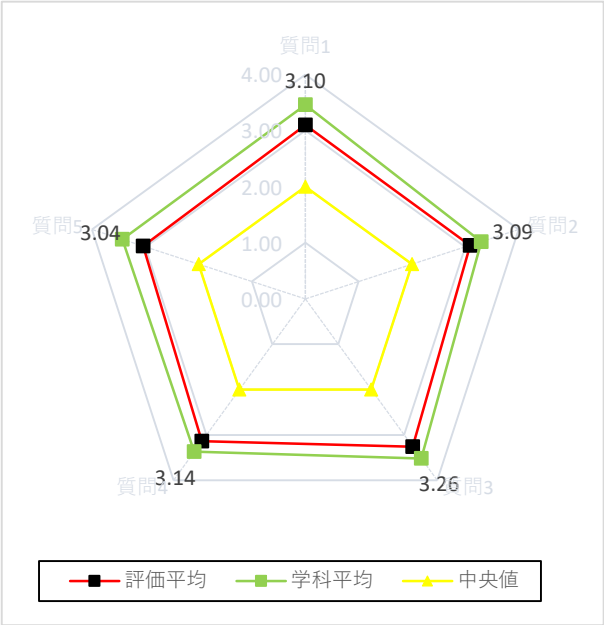
昨年までは小テストを筆記で行っていたが、学生が自由に調べて解答できるようにTeamsでの課題提出とした。これにより、自宅での復習を促すことができた。

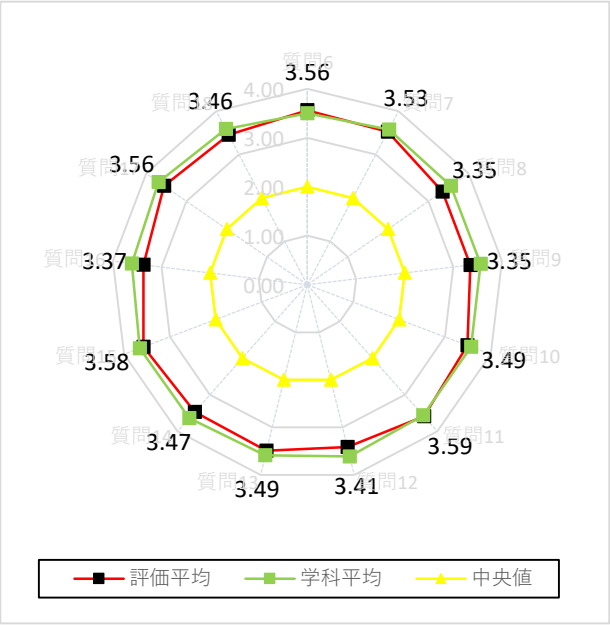
（３）次年度に向けての取り組み

次年度も引き続きオンラインを活用した課題の取り組みを促したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学Ⅱ	88名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

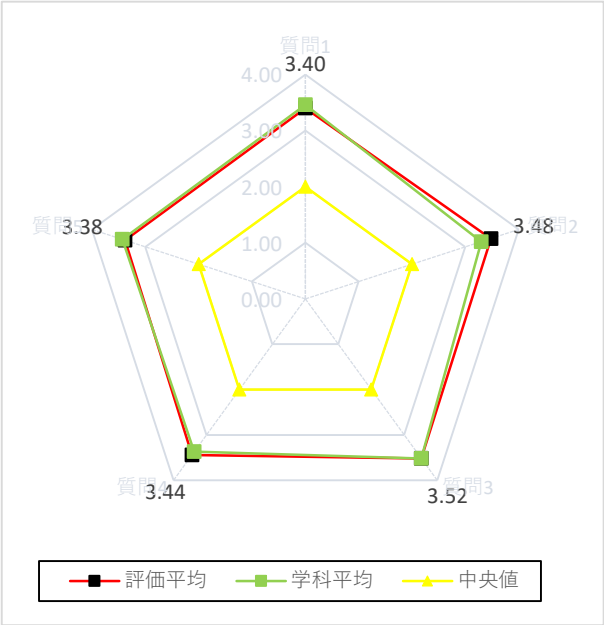
学生コメントより、動画による説明が良かったとの声が寄せられた。動画は採用教科書の特典であるが、講義中の説明に加えて動画を見せることにより、より理解が深まったと考える。

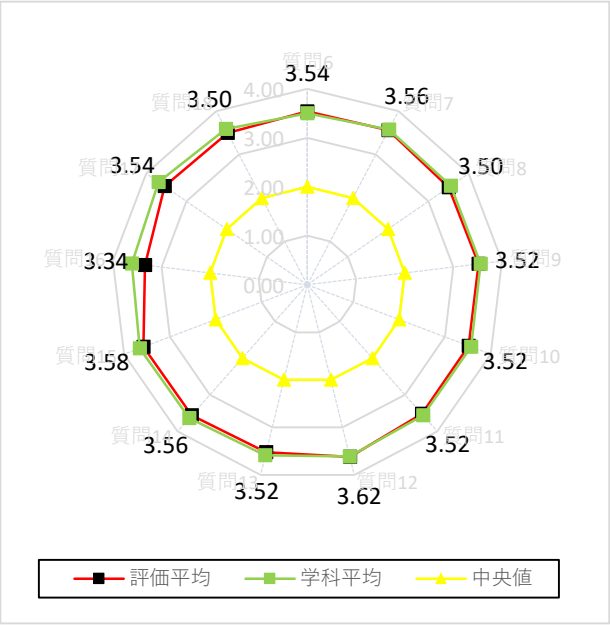
（３）次年度に向けての取り組み

次年度も同様の教科書を採用し、分かり易い講義展開に努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学実習	59名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

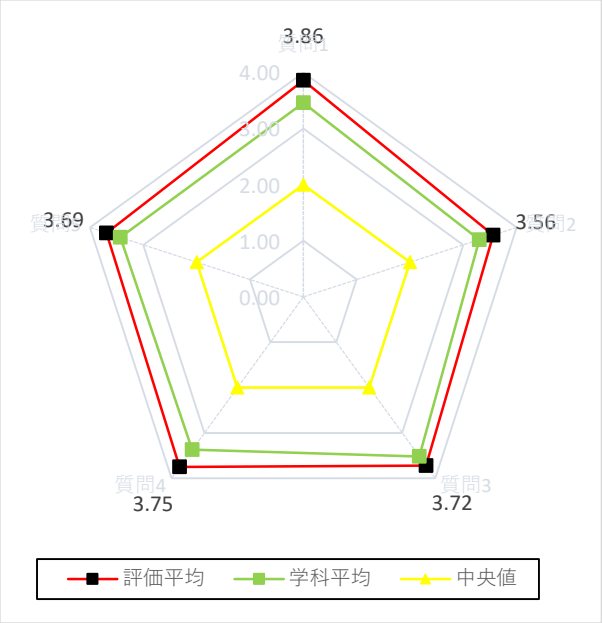
実習を通して生理学の知識を深めることができた。
課題を提出しない学生がいた為、課題の出し方を検討する必要性を感じた。

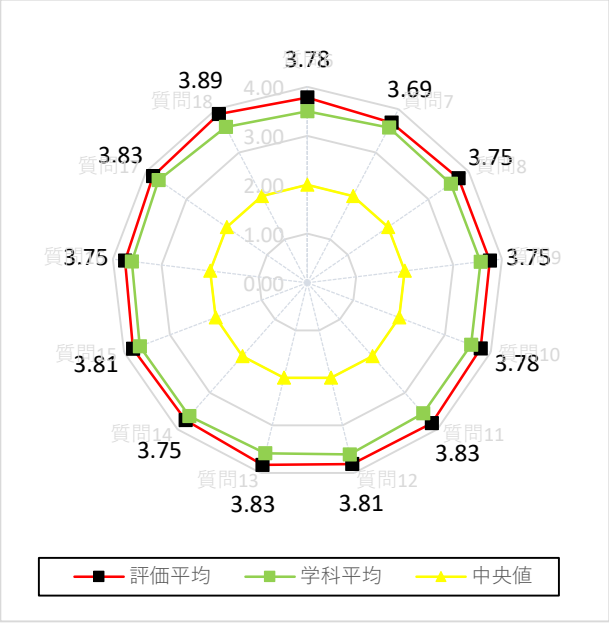
（３）次年度に向けての取り組み

実習時間中に課題の作成時間を設け、取り組みを促すようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		人間発達学	74名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

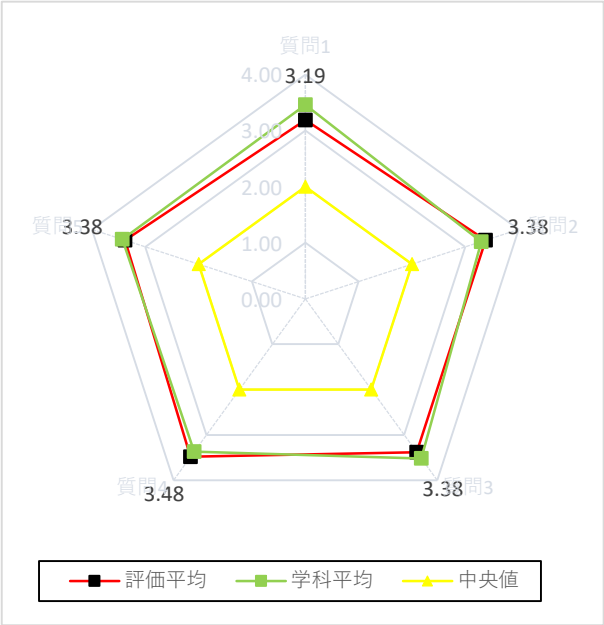
1年生前期必修科目であり、授業の進め方や板書、プリント活用など丁寧に説明した。シラバスについては確認したがネット上で見ている学生が少なかったので、ベット予定表を作成し配布し説明した。また講義進行などに変更あるたびに予定表に書き込みをさせて確認させた。１年次より人間発達学の講義が国家試験や上位学年の講義にどのように結びついていくのかを具体例を示し講義を行った。理解が乏しい学生が増えており、より自己学習の援助や学習到達度が自分で把握できるような取り組みが必要である。
い。その他、概ね良い高い評価となった。

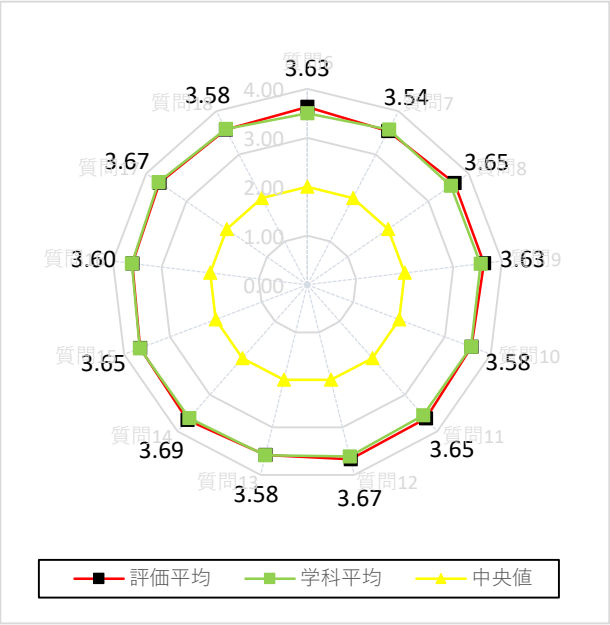
（３）次年度に向けての取り組み

今年度はOT教員退職によりPTとOT合同での講義となった。履修者が増えたため、数回にわけてノートチェックなどを行った、講義への理解が乏しい学生へのフォローに努めたい。また学習意欲の高い学生については国家試験問題を使って講義内容のアウトプットをはかりたい。シラバスの活用については、初回講義時だけでなく、随時シラバスを使い講義の進捗状況を説明する。また記述式の試験問題に苦労している学生が多くいたので、講義中も文章でまとめる機会を増やしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学Ⅱ	52名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

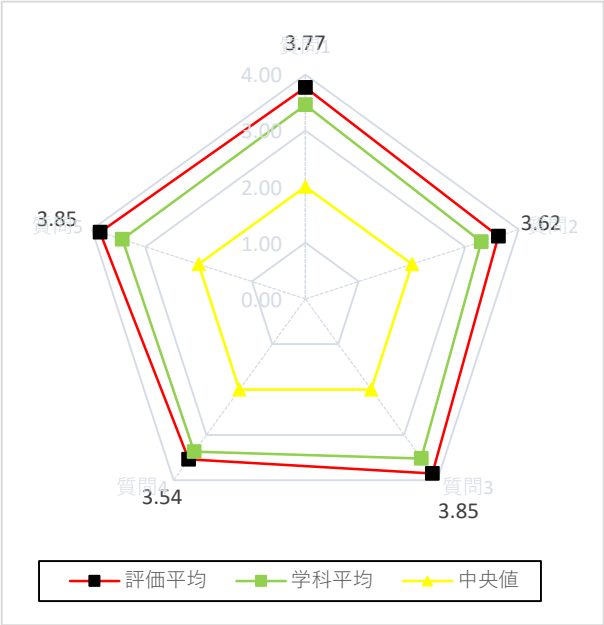
全体的に学科の平均をわずかに下回っている結果となっている．特に授業の欠席や学生自身の工夫については不足している点があるが，1回生の授業であるため，どのような対応をしていくのかが十分伝わっていない可能性がある．つまり，授業でわからなかった部分や不足している部分をどのように復習などをするかが十分伝わっていなかった可能性がある．また若干シラバスと進捗具合が異なる授業の進捗もあったため（学生の理解度にわせて進むペースを変更など），その都度，学生にシラバスの変更や復習の方法についても説明することが不足していたと考えられる．

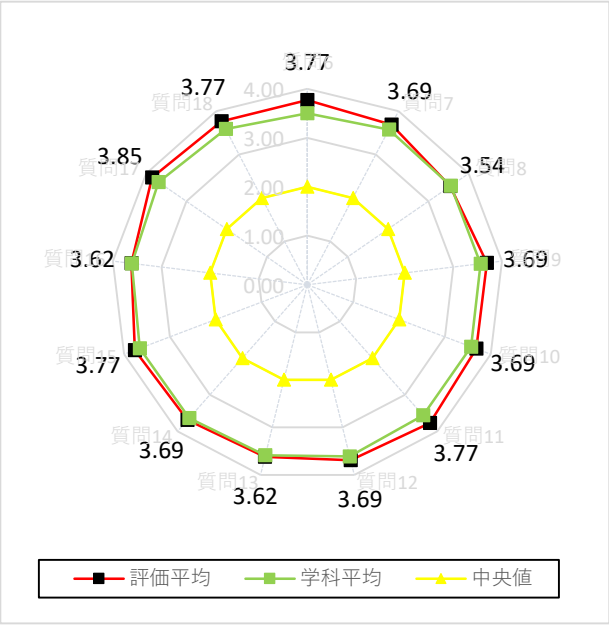
（３）次年度に向けての取り組み

授業の欠席や授業だけではわからなかった・わかりにくかった点についての不足している部分の復習方法について説明方法を模索する．特にわかりにく部分に関してはオンデマンド資料の準備なども検討し，わからなかったところを残していかないように配慮を行う．
また直接，質問をしやすいような雰囲気作りなども積極的に作っていき，学生が主体的に学ぶ雰囲気づくりも模索していく．

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法学概論	22名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

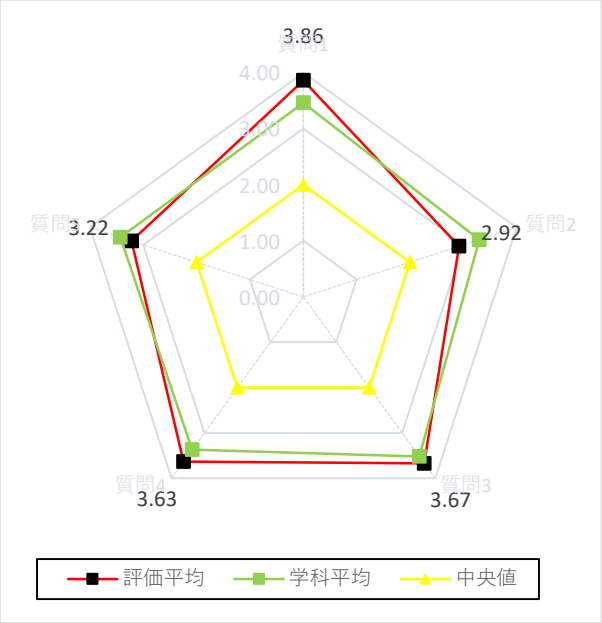
全般的に学科平均を上回っており、高評価が得られていた。
しかし、質問16の双方向性については意識して授業を実施したものの、評価は思ったほど高くはなかった。

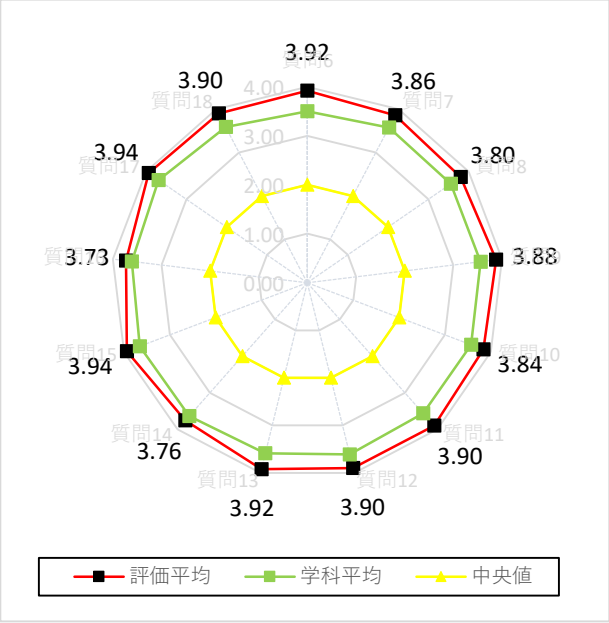
（３）次年度に向けての取り組み

質問16の双方向性については意識して授業を行ったが、思ったよりも評価は高くなかった。
次年度においては、より双方向性を意識した授業を展開するよう心掛けたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学概論	53名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

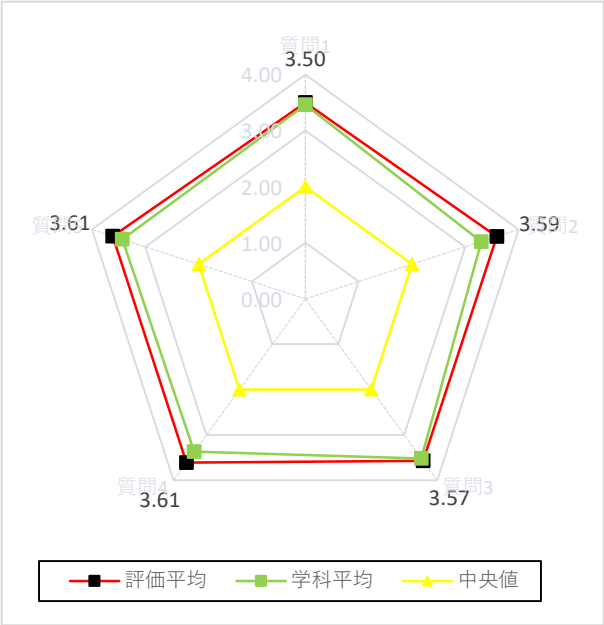
・総合評価（質問18）は，「満足・やや満足」が100%（51人／51人）であった。
・学生自身が講義に臨む態度の評価も，講義に関する評価も高かった。
・概ね良好であった。

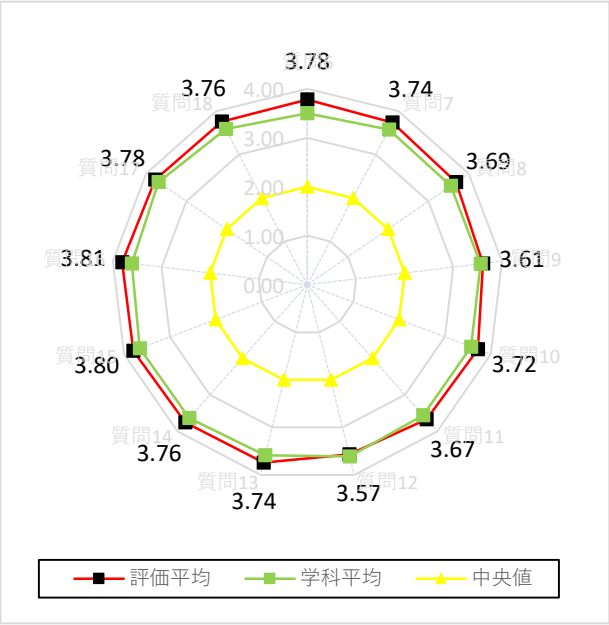
（３）次年度に向けての取り組み

・次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。
・また，実習の際に活用できるような知識を付与できる講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		画像評価学	63名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

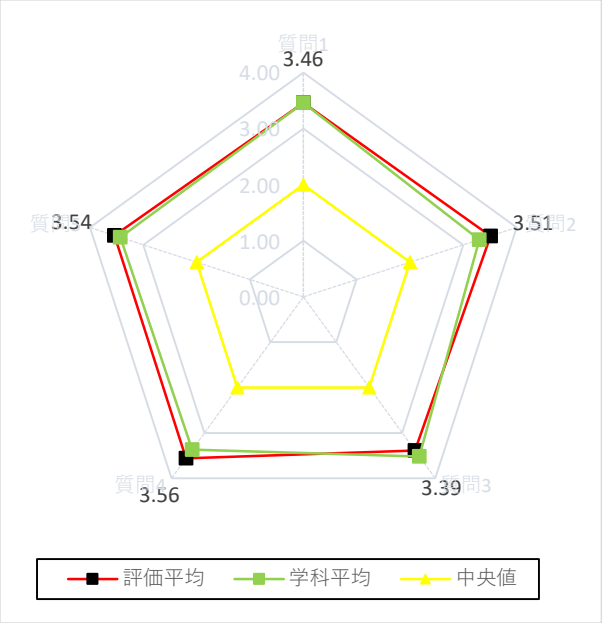
欠席者管理と授業中の私語・居眠りにもさらに注意する必要があります。
より良い授業をするために、さらに工夫をする必要性が感じます。

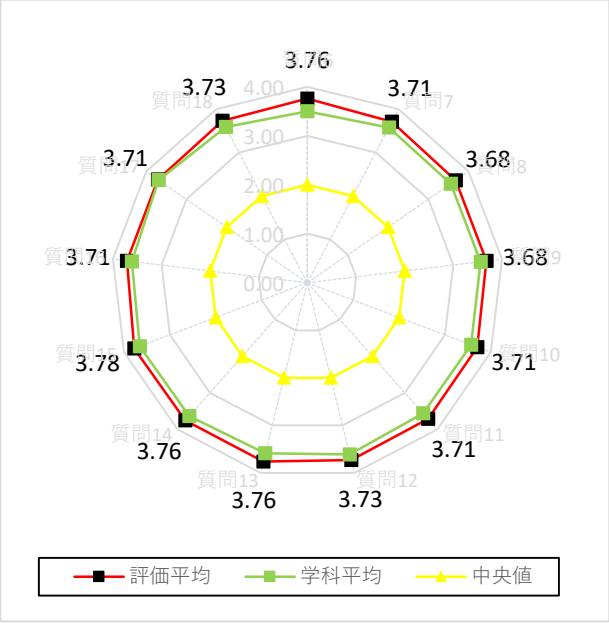
（３）次年度に向けての取り組み

欠席者管理を徹底にするとともに、授業中の私語・居眠りにも真剣に取り込みます。
さらに、より良い授業をするために常に学生の意見に耳を傾き、柔軟かつ丁寧に対応していきます。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		リハビリテーション栄養学	63名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

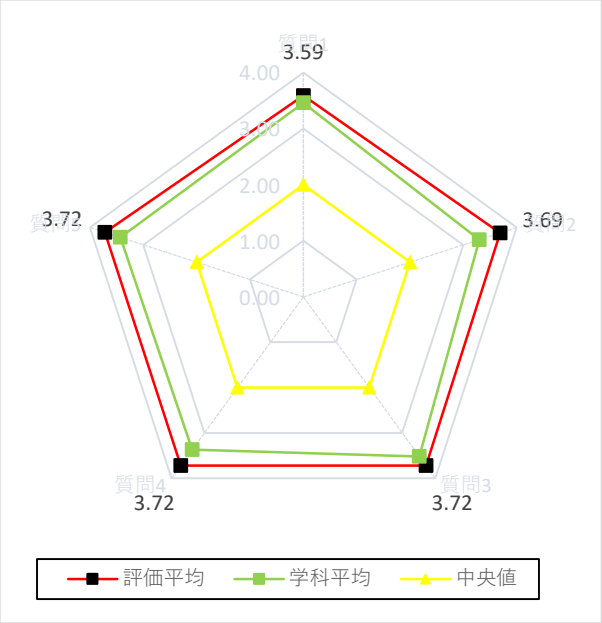
栄養学の授業評価においては、質問1から18までにおいて、ほとんどが学科平均か、やや上回っていた。この結果は、学生自身も関心が高くなく、興味を持ちにくい科目であることによるかも知れない。しかし、総合評価は3.73であったので、一定の理解は得たのかもしれないと感じる。栄養学はリハビリテーション学部の専門基礎科目の中の必修科目となっている。以前は選択科目で受講生が少ないために、リハビリを専門とする学生にとっては関心の薄い内容であった感もあるが、必須となってからは、学生も真剣に聞いている者が多くなったようである。

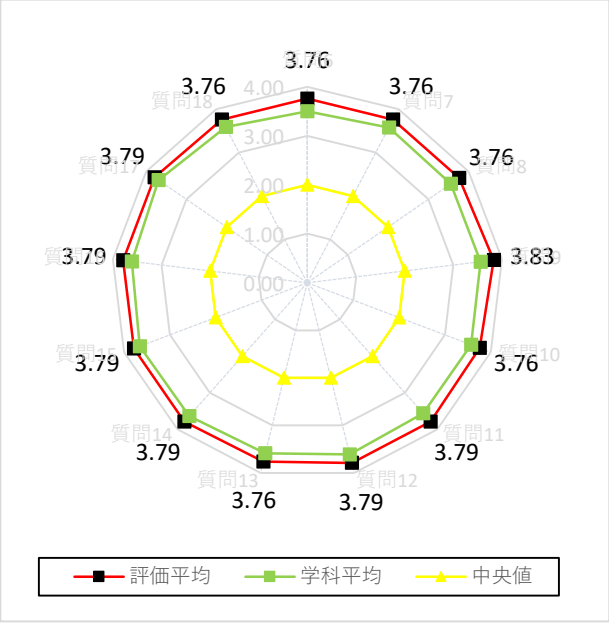
（３）次年度に向けての取り組み

栄養学の授業評価においては、各質問項目のほとんどにおいて、学科平均に近いかやや高い点数であった。前年度から必修となっている。テキストを用い、学生の興味や関心が高め、管理栄養士と職場において協働していく上で役立つ知識を得られる内容にしたが、さらに進めていきたいと思う。映像などの視聴覚資料を取り入れ、パワーポイントや板書などにおいても、学生が作業しながら理解を深めていけるように工夫したいと考えている。職場において管理栄養士と協働するための基礎知識を得られるように、いっそう改善したいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学Ⅱ	41名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

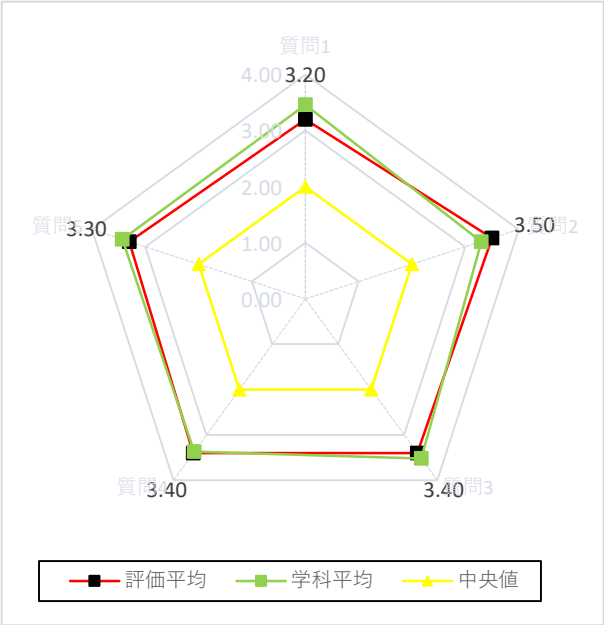
平均3.75と概ね良好な結果となった。履修者全員から授業評価回答が得られるよう努める。

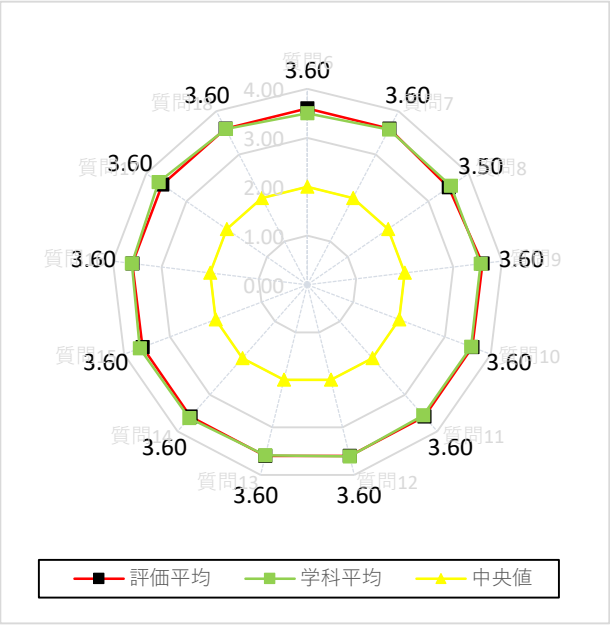
（３）次年度に向けての取り組み

講義は実技を交えての行った。クラスの人数が多いと教員と学生の双方向的なやりとりが難しくなる場面もあったが、質問しやすい環境を心掛けている。また自己学習が欠かせない科目でもあるため、授業で分からないことや実技で不安のある部分などを援助していける取り組みを行っていかなければならない。また自己学習が出来ない学生についてのフォローが今後より必要になると感じている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法評価学概論	18名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

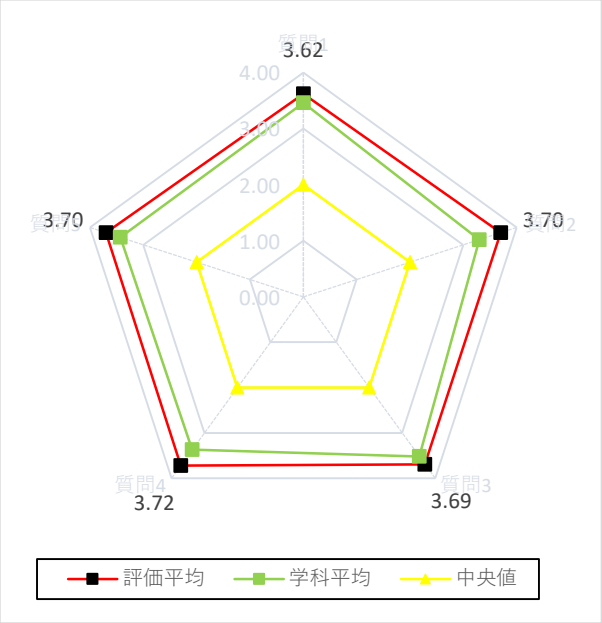
学科平均よりも授業欠席数が上回っていた。

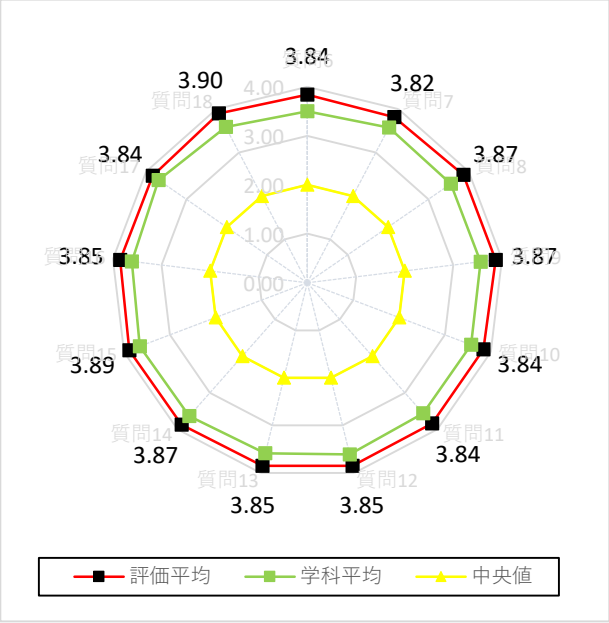
（３）次年度に向けての取り組み

有業を欠席すると成績に関わることを再度しっかりと伝授していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		疾病予防と健康管理	61名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

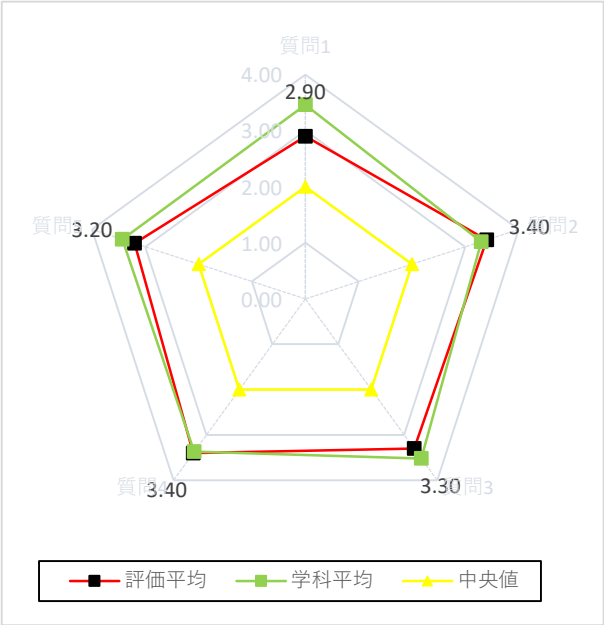
概ね良好な結果であった。

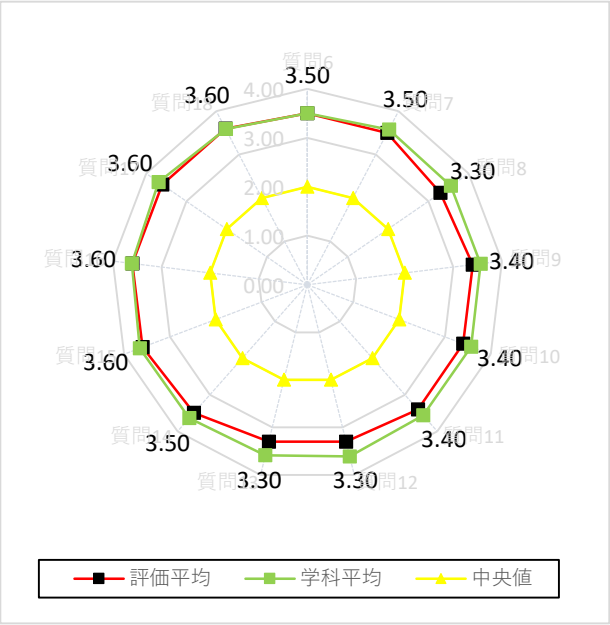
（３）次年度に向けての取り組み

講義は座学・実技・課題・演習問題・課題を１セットとして行った。実技を取り入れたことで学生は意欲的に取り組んでいたと感じる。質問も実技時間に多く受けることが出来た。PT/OT合同講義で実技を取り入れるため、クラスを複数に分けて講義を行った。次年度は複数教員で対応できるため、より一人一人に対応が出来るようになると思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法評価学演習Ⅰ	18名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

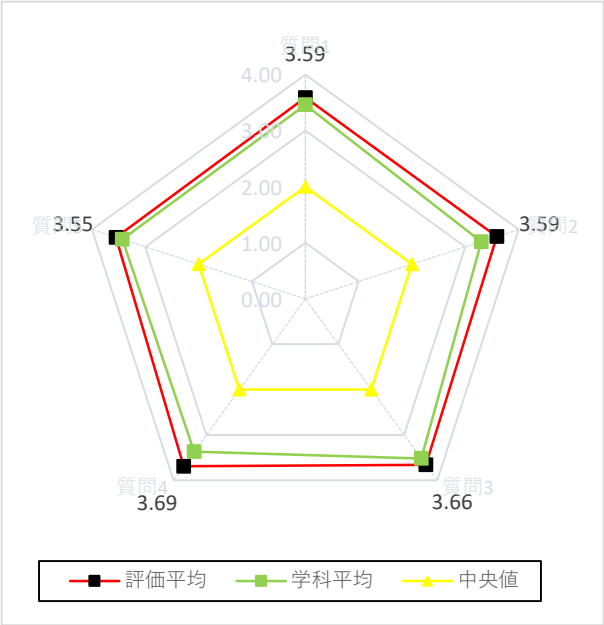
当科目は実技の授業であり、学科平均を下回る項目が多くあった。
基礎知識が不十分の学生においては難しく感じる授業であった可能性がある。

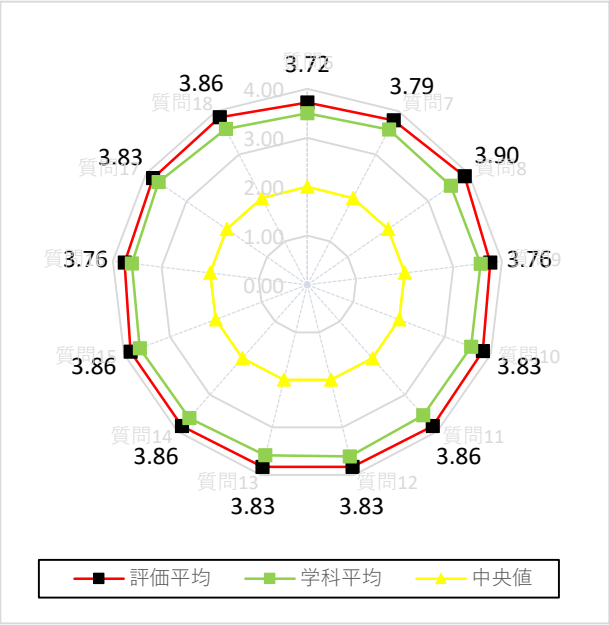
（３）次年度に向けての取り組み

実技の科目であり、基礎知識が不十分の学生においては難しく感じる授業であった可能性がある。
次年度においては、事前学習を促すとともに、授業中においても可能な範囲で基礎知識の復習内容をこれまで以上に取り入れていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		物理療法学	37名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

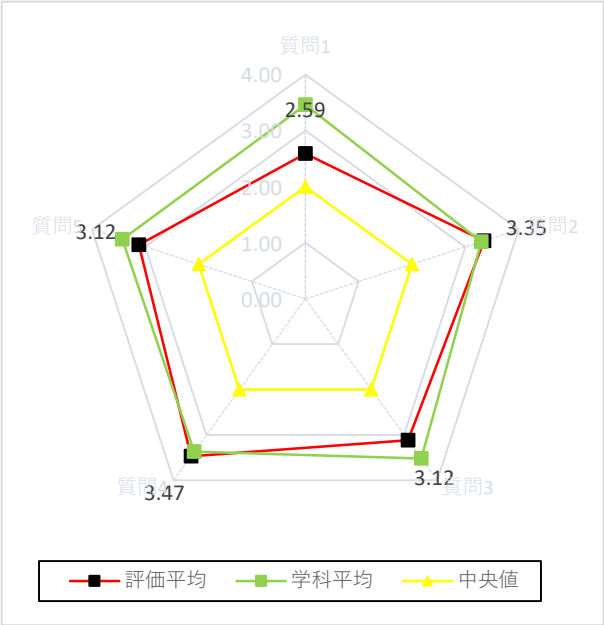
全体的に学科平均と同じようなスコアを記録したため，概ね授業の構成や内容は問題はなかったと考える．

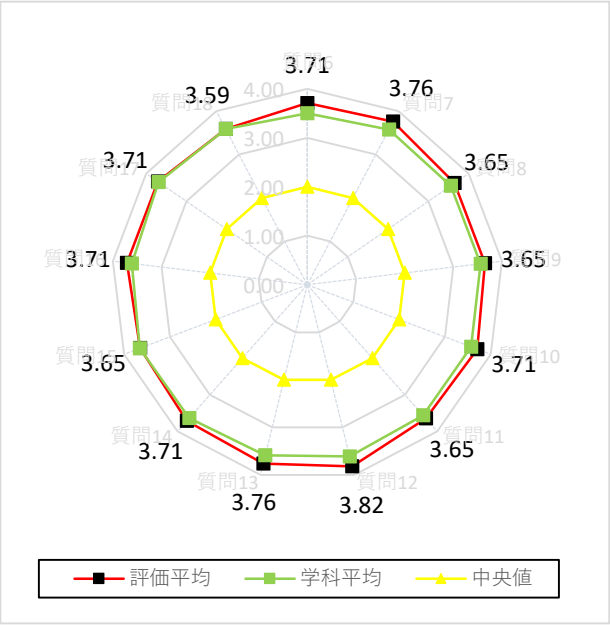
（３）次年度に向けての取り組み

今回は基礎的な内容から臨床的な話を少し増やしながら学生の興味を引くように授業の構成を変更した．一方，患者像のイメージがまだ十分ではない2回生であることも考慮して，もう少し疾患の基礎的な話や其の臨床像についての説明が不足していたと考えている．そのため，次年度は基礎的な話から臨床応用に向けて，動画素材などを積極的に利用して，学生に興味を持ってもらう授業を展開したいと考えている．

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法評価学実習	17名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

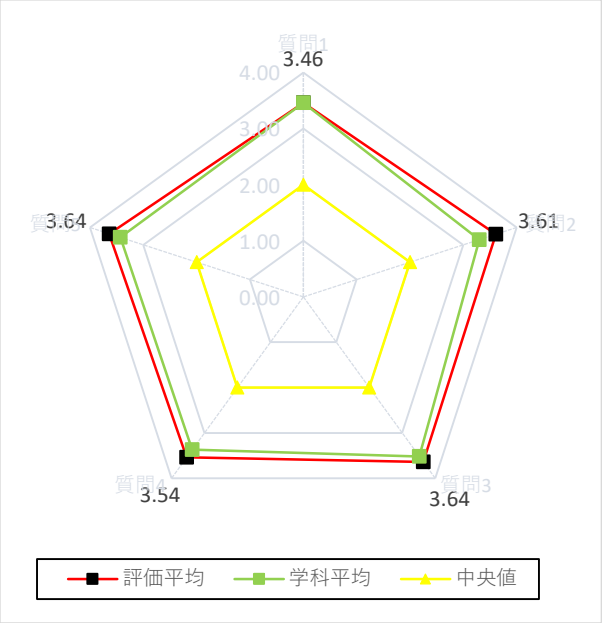
概ね学科平均を上回る結果であった。
実技の授業で、基礎知識を要する授業であることから、評価が低いことを予想していたが、想定よりも高評価であった。

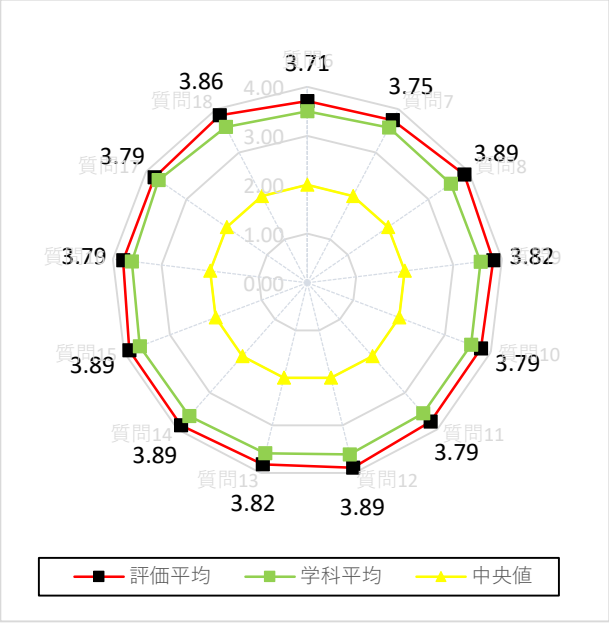
（３）次年度に向けての取り組み

実技の授業であることから、基礎知識が乏しい学生にはかなり難易度の高い授業であることが予想される。
事前復習を促すとともに、学生の理解度を考慮しながら授業をすすめていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		物理療法学演習	37名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

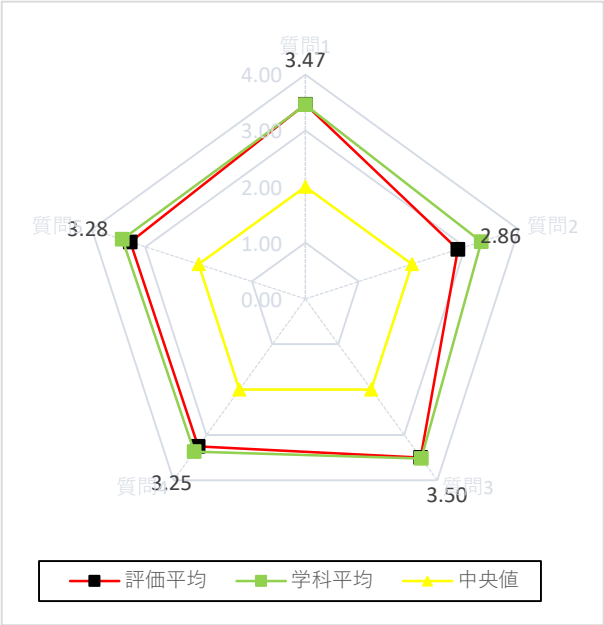
全体的に学科平均と同じようなスコアであったため，講義としては順調に展開できていたかと感じる．

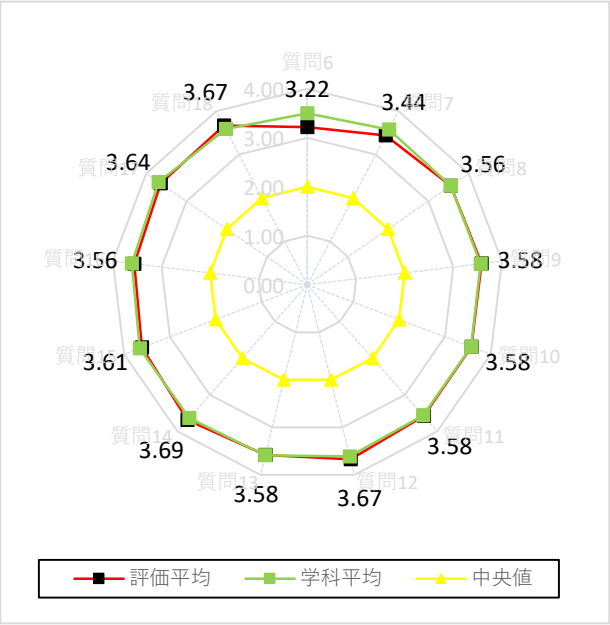
（３）次年度に向けての取り組み

今回は外部より実際の最先端機器をお借りした講義を展開することが出来，実際に現場での利用例などを学ぶことが出来たのは良かった点である．
西九州大学が開学時より使用している機器はすでに多くの現場で使用されているのが少ないほど，古いものであるため，本来であれば更新をしたいところであるが，予算的に難しいため，次年度も外部企業などの援助を受け，最新かつ臨床現場で使用されているものを学生に経験できるような講義を展開する予定である．

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法管理学	39名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

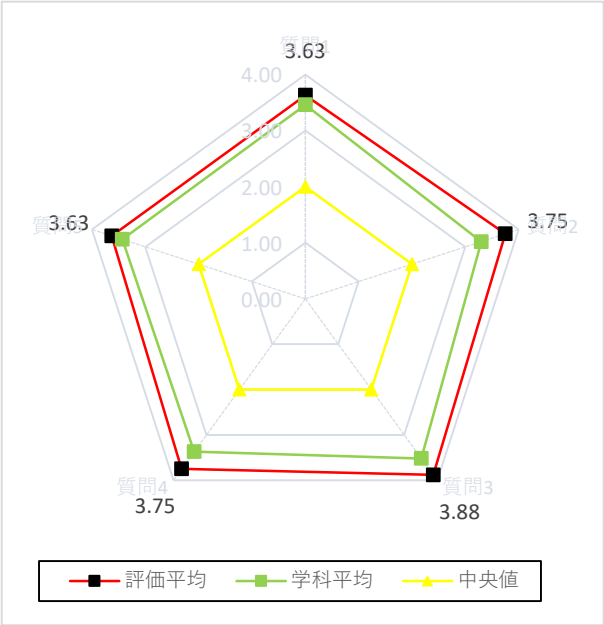
シラバスの活用、説明についての評点が低い。

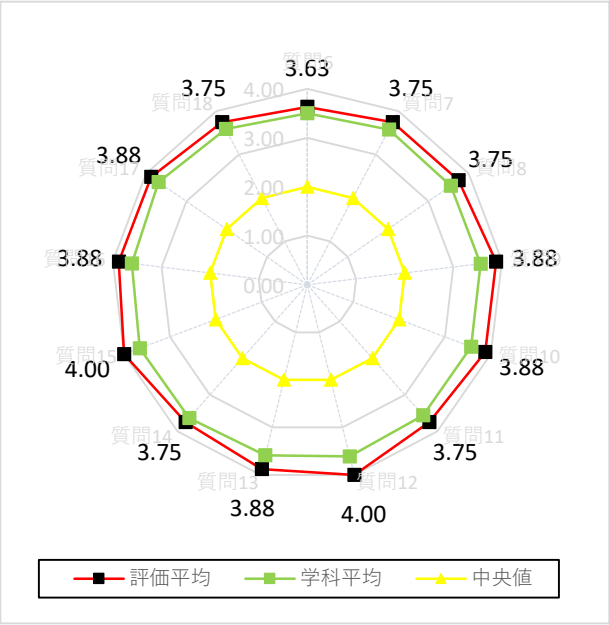
（３）次年度に向けての取り組み

講義全体の流れや評価方法、授業目標は1回目の講義で説明しているが、シラバスとして説明していると認識されていないように思われる。今後はホームページ上のシラバスを用いて説明を行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		身体障害作業療法学	18名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

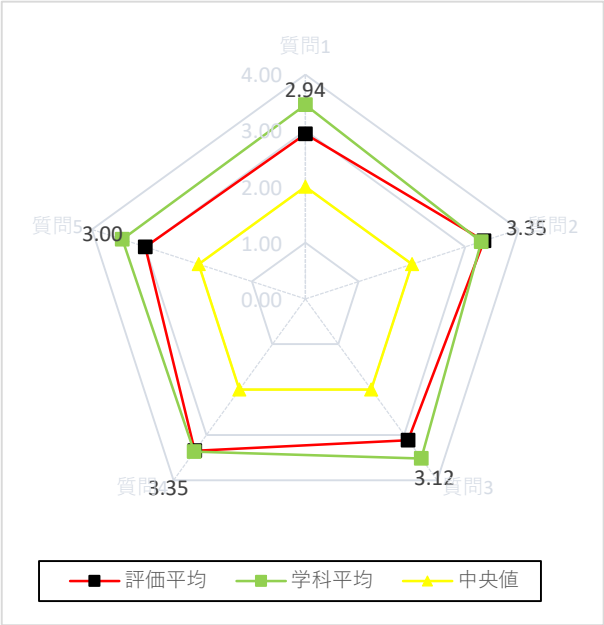
概ね学科平均を上回る評価であった。

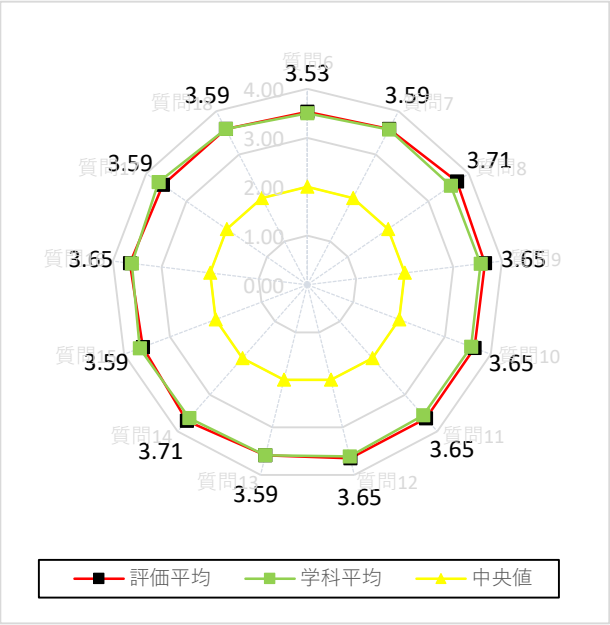
（３）次年度に向けての取り組み

次年度以降も各質問でよい評価が得られるように、より分かりやすい授業内容になるよう努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		日常生活活動学	17名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

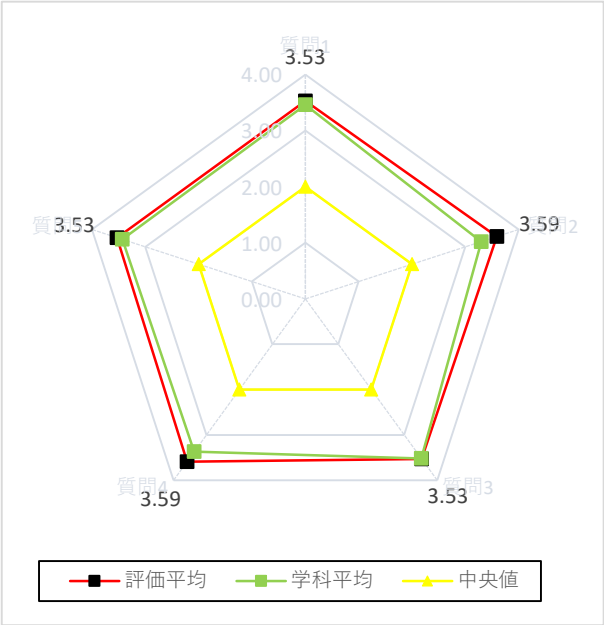
概ね学科平均を上回る評価であった。

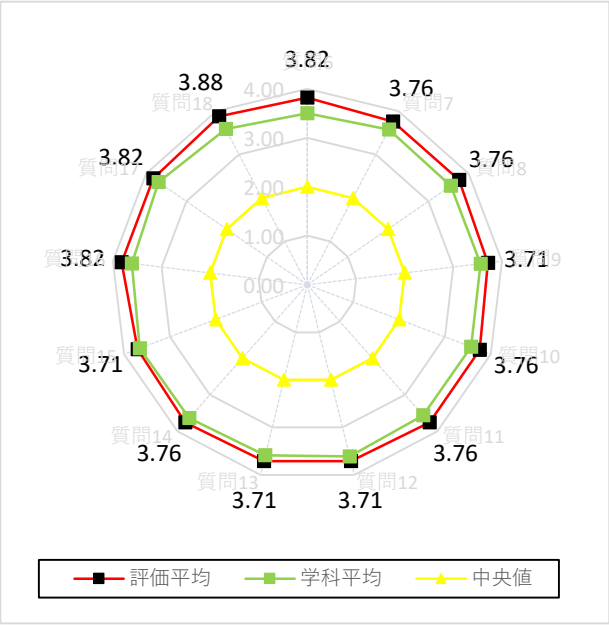
（３）次年度に向けての取り組み

次年度以降も各質問で良い結果となるように、さらに授業内容をブラッシュアップする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		身体障害作業療法学実習	18名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

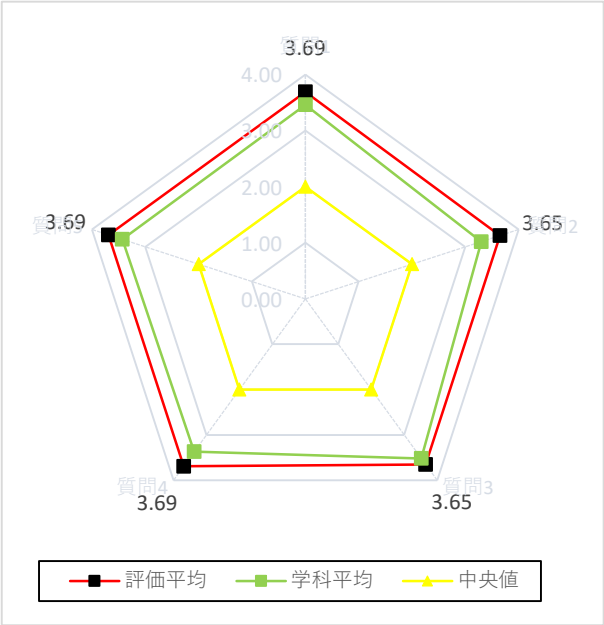
各質問において学科平均を超える結果であった。

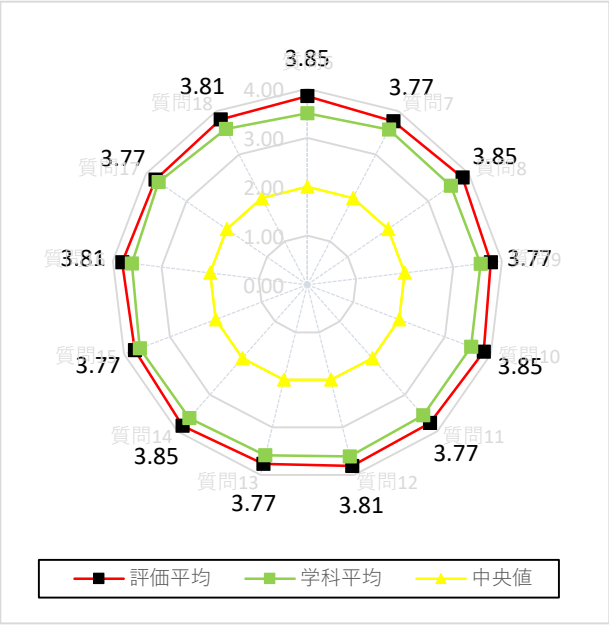
（３）次年度に向けての取り組み

次年度以降もより分かりやすい授業となるように努めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		日常生活活動学	45名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

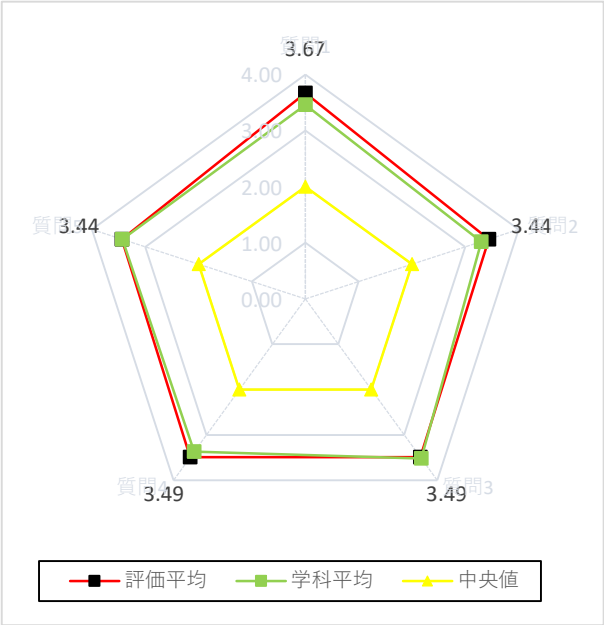
全体的に学科の平均値を超える評価をもらえていると考えられる成果であった.
次年度も同様の評価をもらえるように授業の準備をしていきたいと考えている.

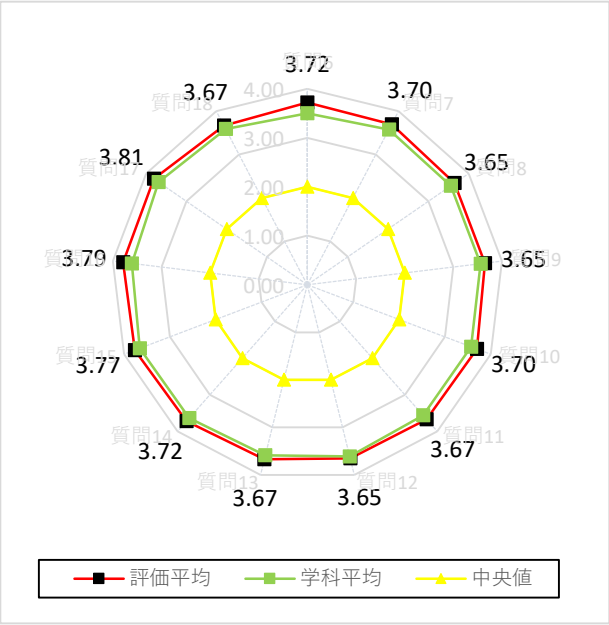
（３）次年度に向けての取り組み

欠席した学生への対応などの改善の余地は残っていると考えられるため，次年度授業ではオンデマンドなどの形式での資料の準備や宿題での対応なども検討していく．また，臨床現場での話をもう少し増やして学生の興味を引けるような授業を展開していきたい.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経障害理学療法学	45名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

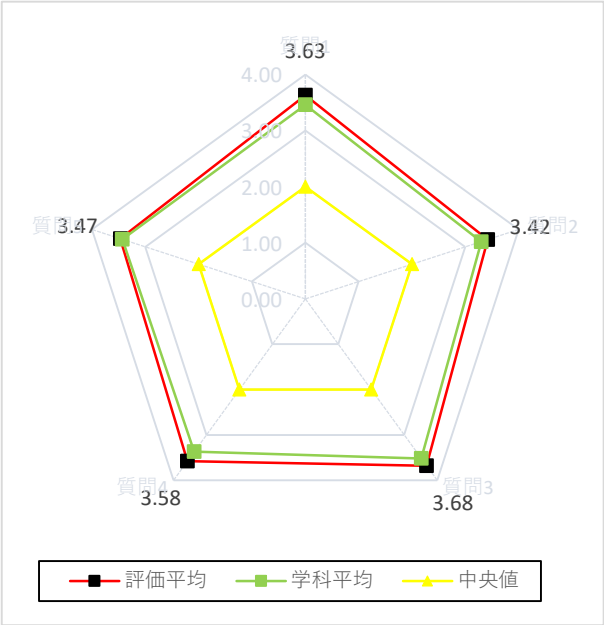
・総合評価（質問18）は，「満足・やや満足」が95%（41人／43人）であった。
・学生自身が講義に臨む態度の評価も，講義に関する評価も高かった。
・概ね良好であった。

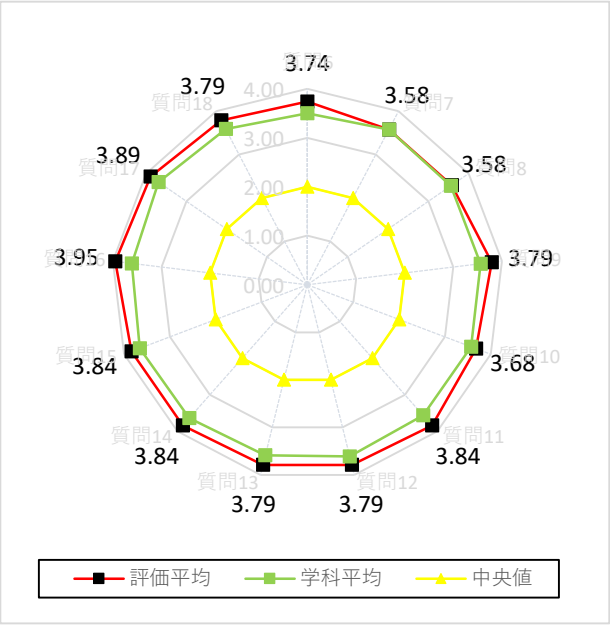
（３）次年度に向けての取り組み

・次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。
・実習の際に活用できるような知識を付与できる講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法総合演習Ⅰ	22名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

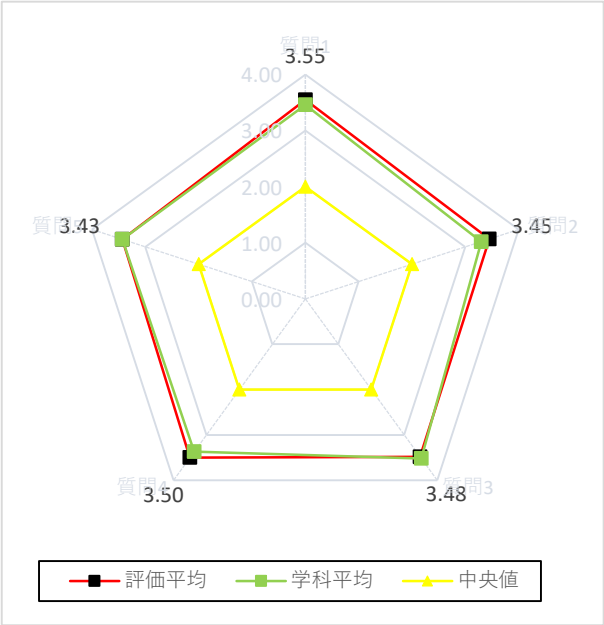
すべての質問項目において、学科平均もしくはそれを上回る評価点数であった。

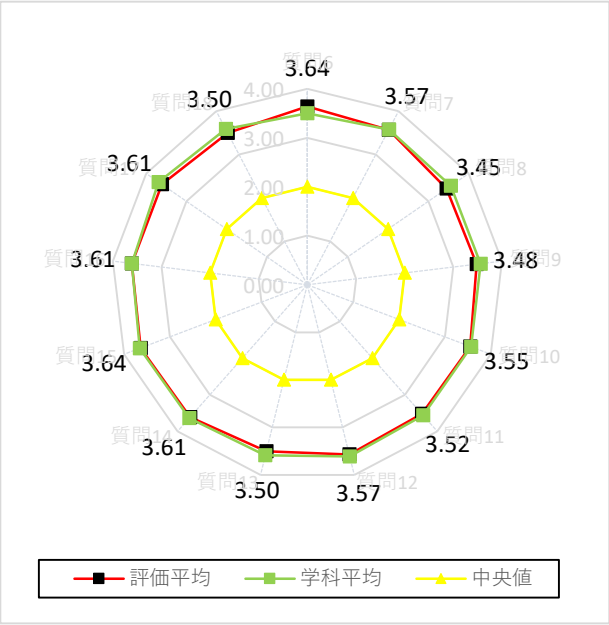
（３）次年度に向けての取り組み

引き続き、同様の関わりを行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経障害理学療法学演習	45名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

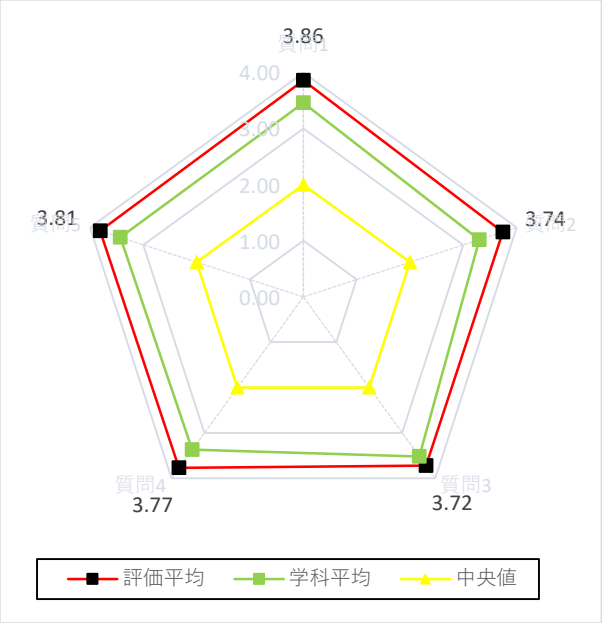
・総合評価（質問18）は，「満足・やや満足」が89%（39人／44人）であった。
・学生自身が講義に臨む態度の評価も，講義に関する評価も高かった。
・概ね良好であった。

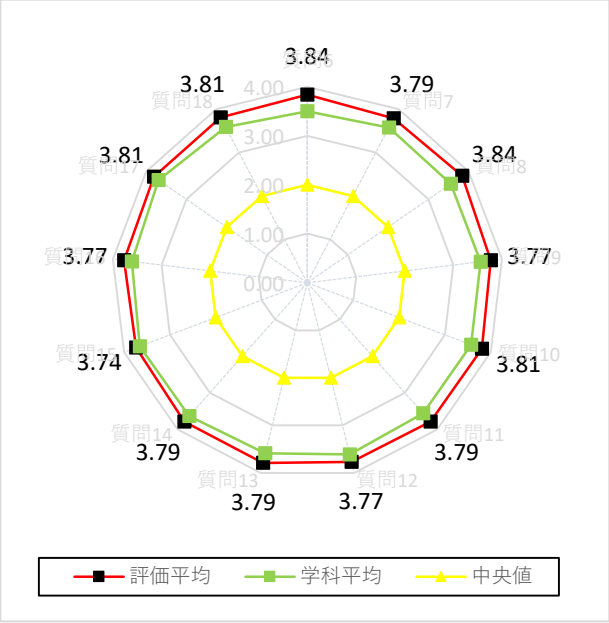
（３）次年度に向けての取り組み

・次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。
・実習の際に活用できるような知識を付与できる講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経障害理学療法学実習	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

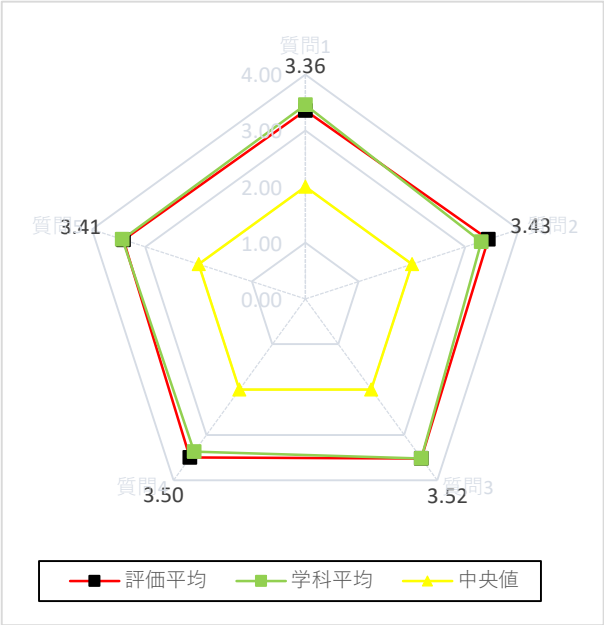
・総合評価（質問18）は，「満足・やや満足」が100%（43人／43人）であった。
・学生自身が講義に臨む態度の評価も，講義に関する評価も高かった。
・概ね良好であった。

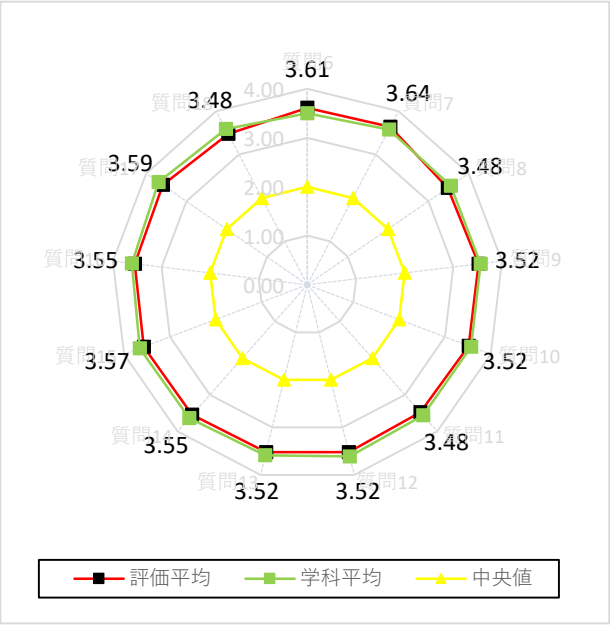
（３）次年度に向けての取り組み

・次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。
・また，実習の際に活用できるような知識を付与できる講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		内部障害理学療法学	45名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

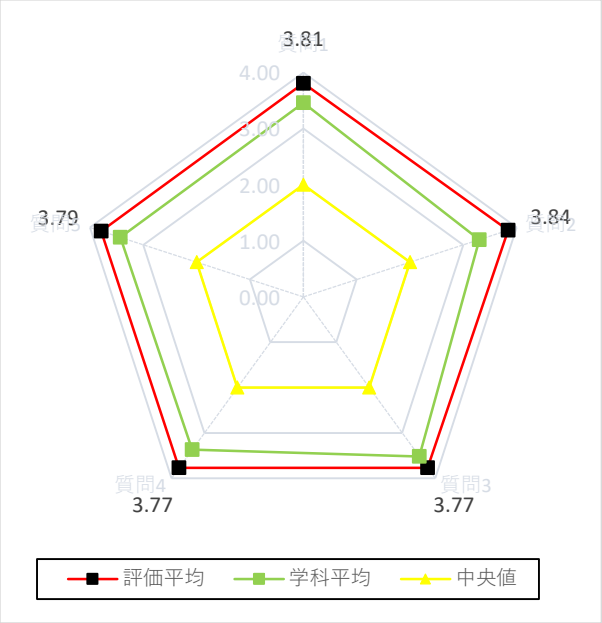
・授業への取り組み（質問17）は，「満足・やや満足」が95%（42人／44人）であった。
・学生自身が講義に臨む態度の評価も，講義に関する評価も高かった。
・概ね良好であった。

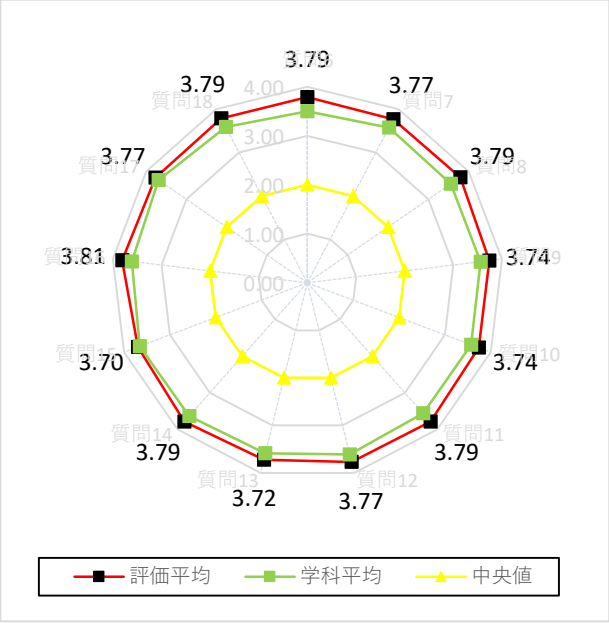
（３）次年度に向けての取り組み

・次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。
・実習の際に活用できるような知識を付与できる講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		内部障害理学療法学演習	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

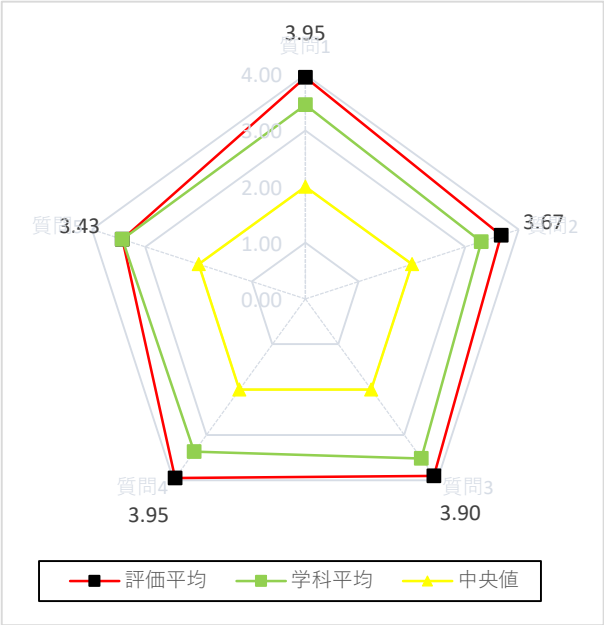
・総合評価（質問18）は，「満足・やや満足」が98%（42人／43人）であった。
・学生自身が講義に臨む態度の評価も，講義に関する評価も高かった。
・概ね良好であった。

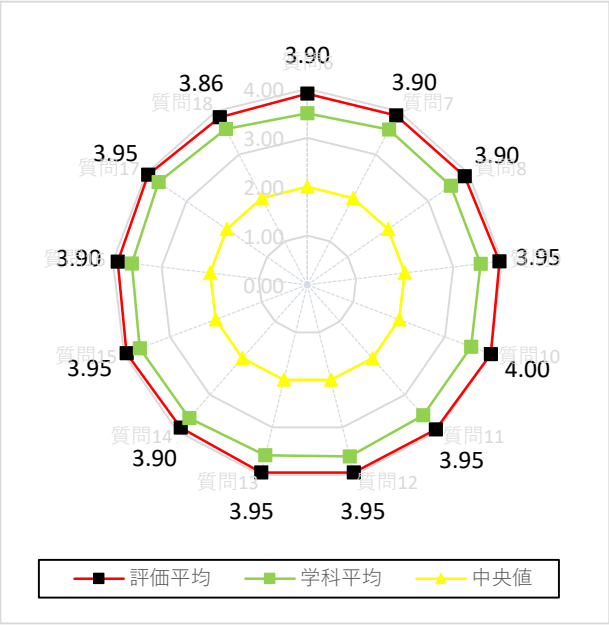
（３）次年度に向けての取り組み

・次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。
・実習の際に活用できるような知識を付与できる講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅰ	22名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

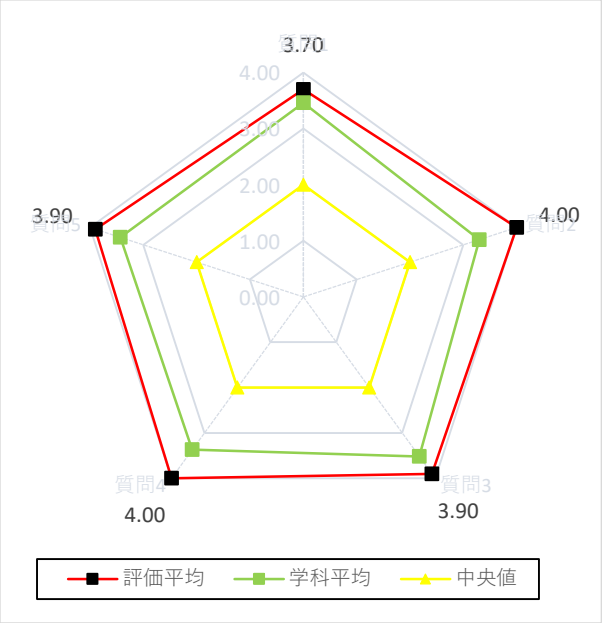
すべての質問項目において、学科平均もしくはそれを上回る評価点数であった。

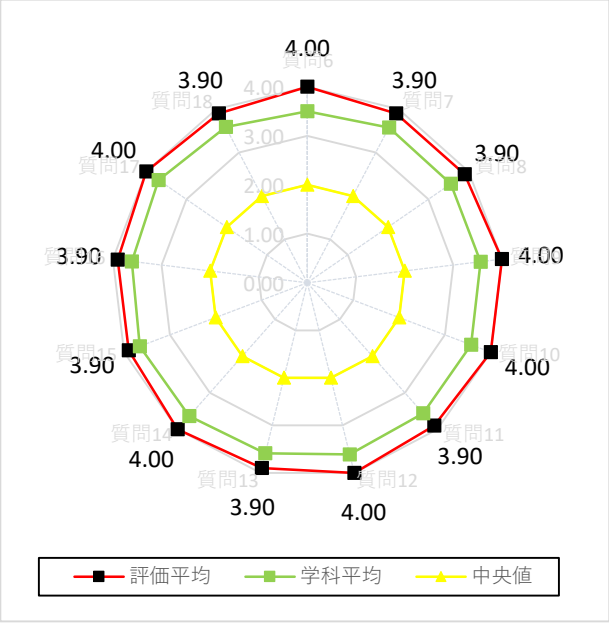
（３）次年度に向けての取り組み

学生が臨床実習で充実した学びを得られるよう、引き続き密に関わっていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		高次脳機能障害作業療法学	18名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

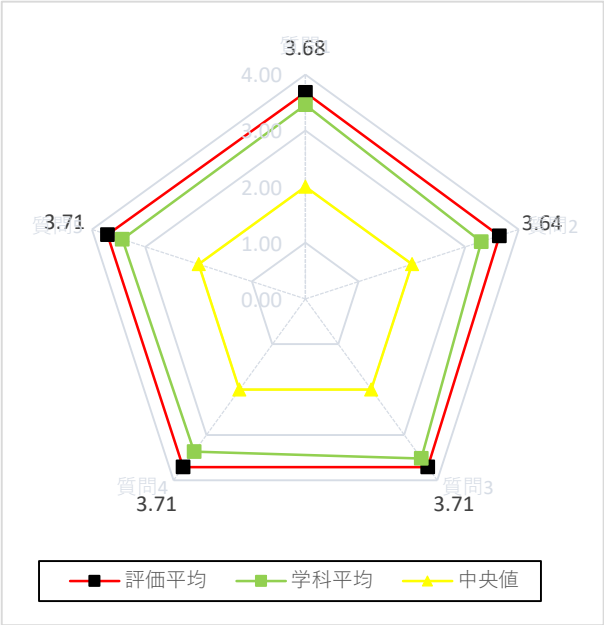
すべての質問項目において、学科平均もしくはそれを上回る評価点数であった。

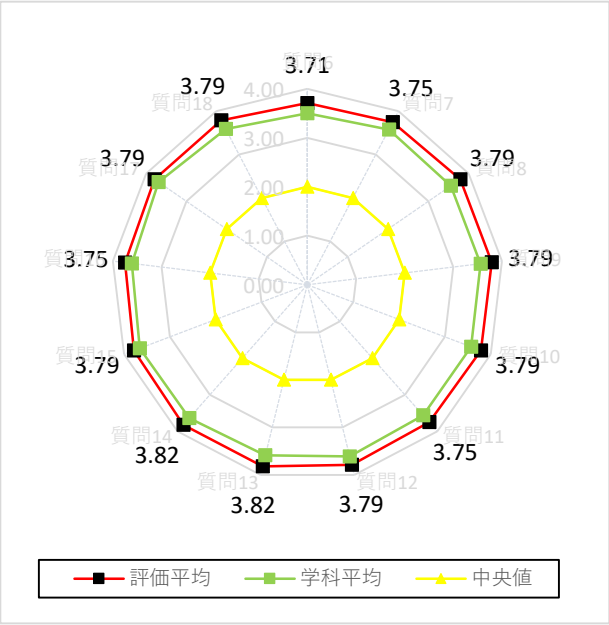
（３）次年度に向けての取り組み

引き続き、同様の関わりを行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		発達障害理学療法学	45名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

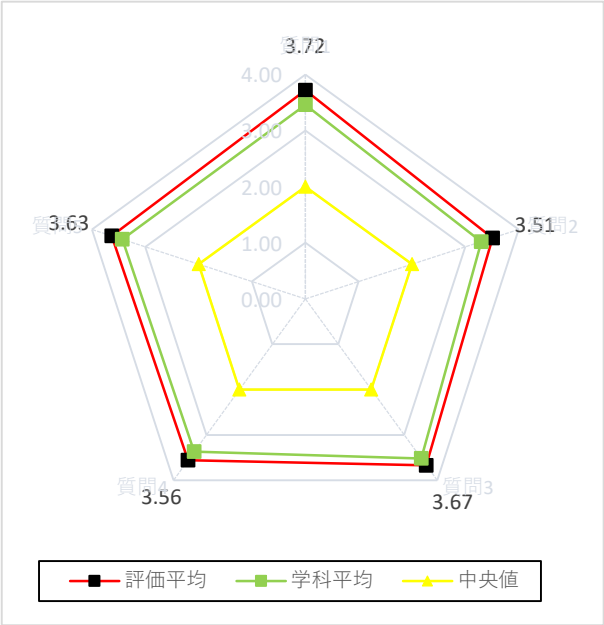
平均3.73と概ね良好な結果であった。講義中にアンケートを入力させたが、全員から回答が得られていない。次年度も履修者全員に授業評価を行ってもらえるよう促す。

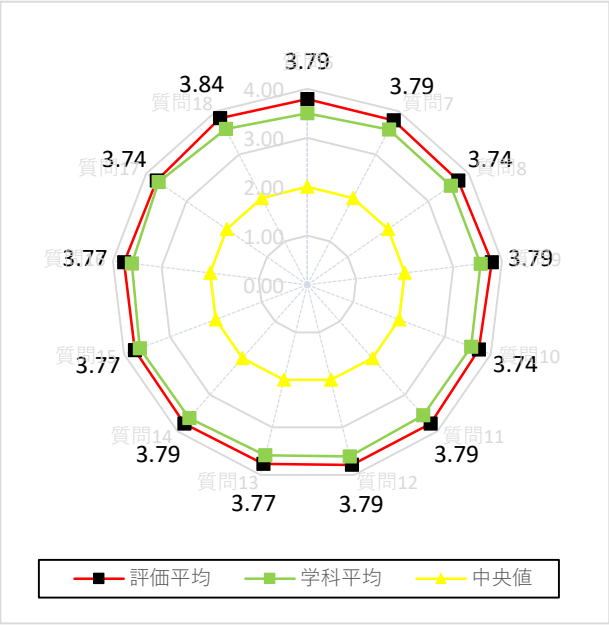
（３）次年度に向けての取り組み

発達障害児を見たことがない学生も多いため、次年度以降も視聴覚教材を使いながら理解を促していく。シラバスをオンライン上で見ている学生が少ないので、初回講義に予定表を配布しながら丁寧に説明をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		発達障害理学療法学演習	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

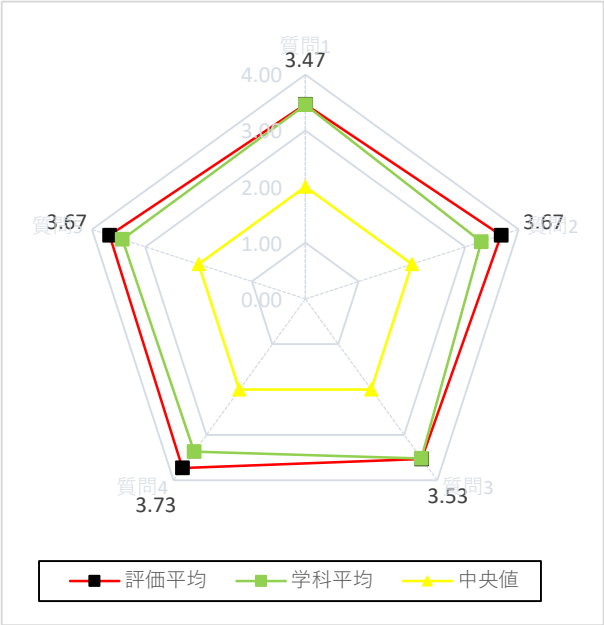
平均3.73と概ね良好な結果となった。

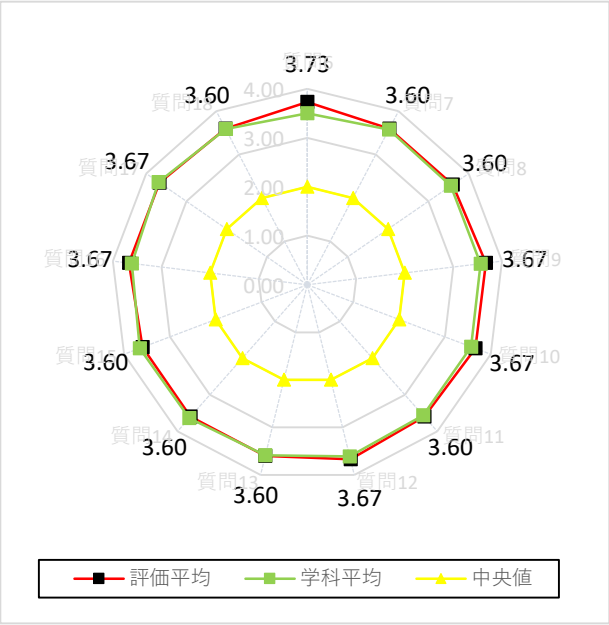
（３）次年度に向けての取り組み

演習の講義では健常児に実際に関わる体験を入れながら講義を組んでいる。次年度以降も保育園の協力を得ながら、正常発達を実際に確認出来る場を設けていきたい。また発達障害児の講義では視聴覚教材を使用しながら発達理学療法の組み立てを学修できるようにしていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		高次脳機能障害作業療法学演習	18名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

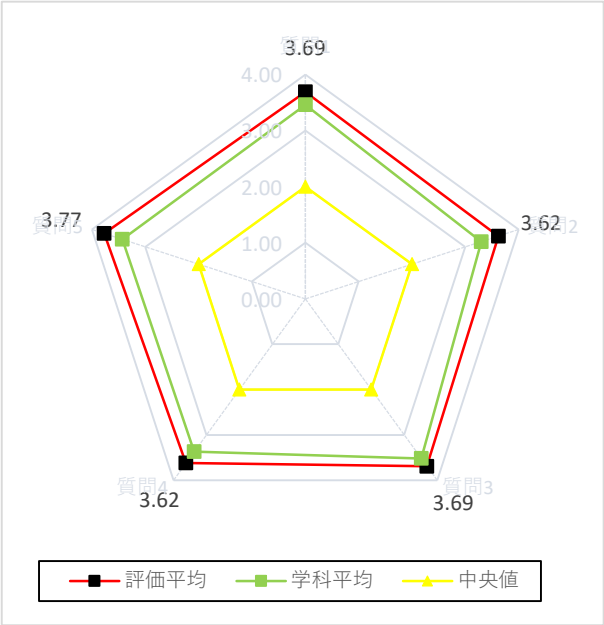
すべての質問項目において、学科平均もしくはそれを上回る評価点数であった。

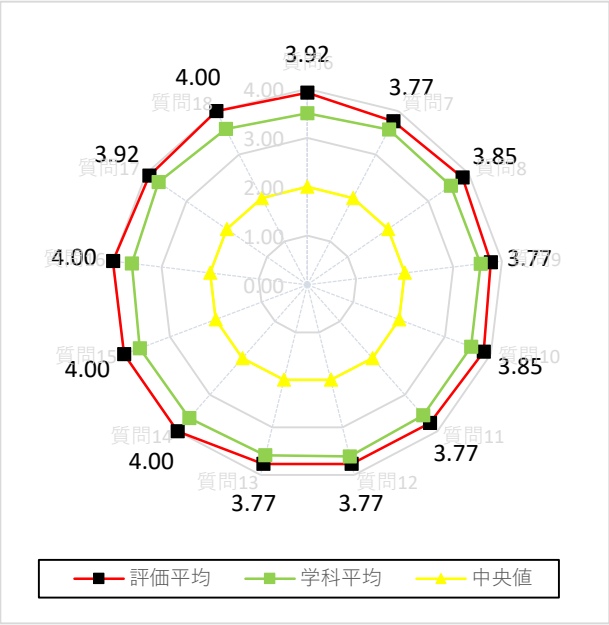
（３）次年度に向けての取り組み

次年度はオムニバス担当教員が変わるため、密な情報伝達等、心がけていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		日常生活活動学演習	18名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

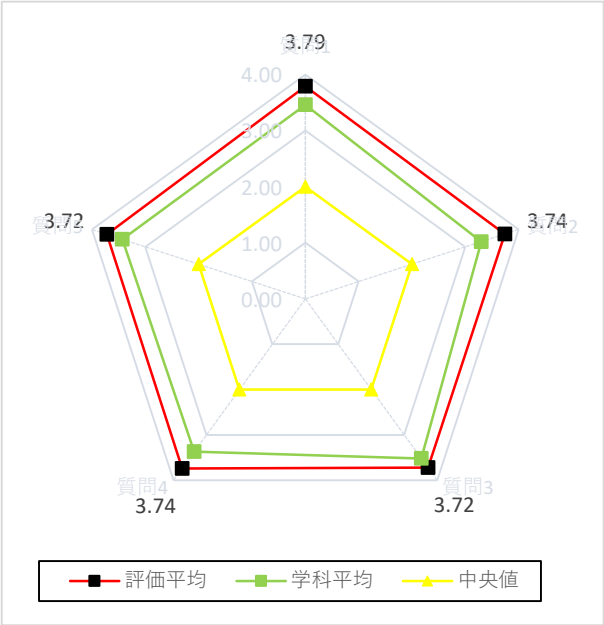
すべての質問項目において、学科平均もしくはそれを上回る評価点数であった。

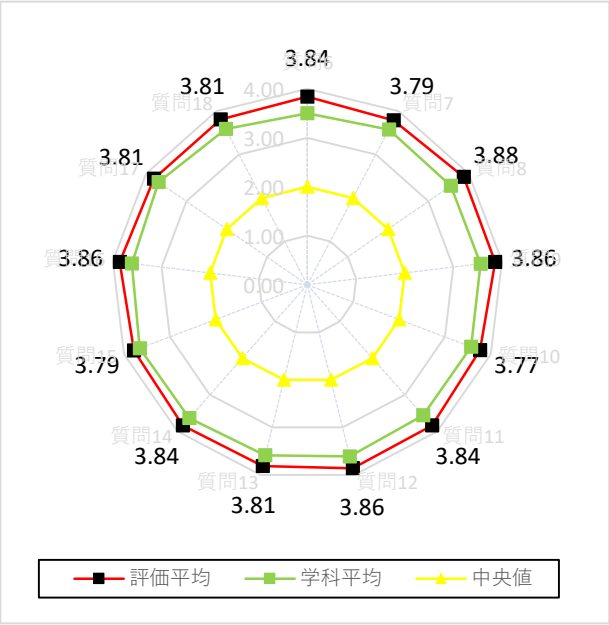
（３）次年度に向けての取り組み

引き続き、同様の関わりを行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		日常生活活動学実習	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

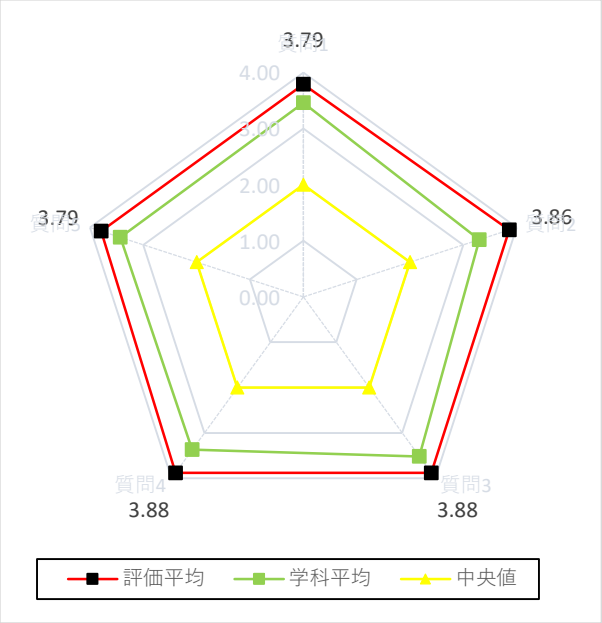
概ね，学科平均よりも高いスコアを残せており，授業の構成・内容としては一定の成果を得られていると考えられる．

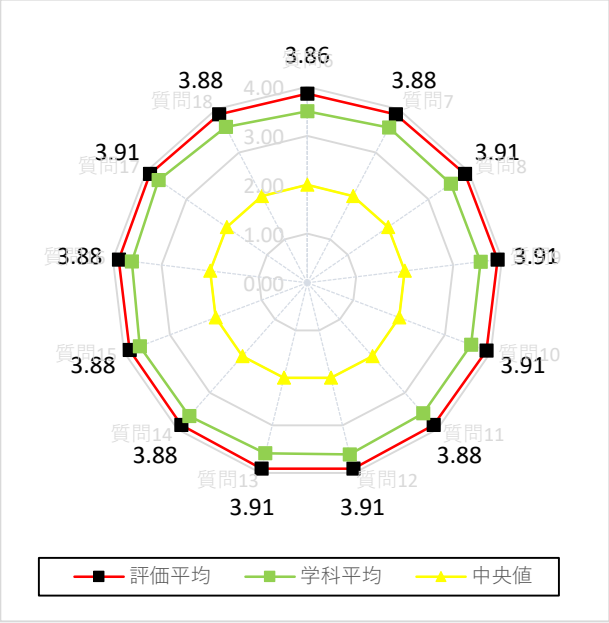
（３）次年度に向けての取り組み

今年度は臨床実習で学生が苦慮する動作分析や介助方法についてをメインで講義の展開を行った．
一方，すべての疾患を網羅できているわけではなかったため，次年度はもう少し対象疾患を増やした実技のコンテンツを準備したいと考えている．
また，疾患の特性についても理解度が学生それぞれでまちまちであることも感じたため，基本的な疾患の特性についても概説することも追加できればと考えている．

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅲ	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

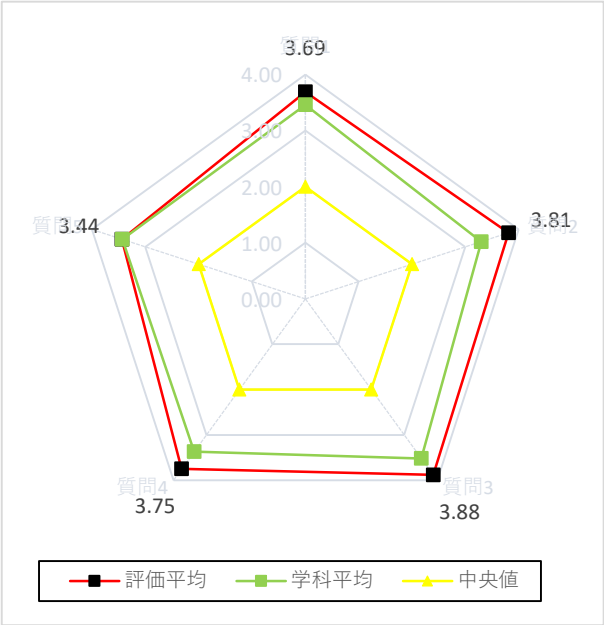
学生が主体的に取り組むことができた。

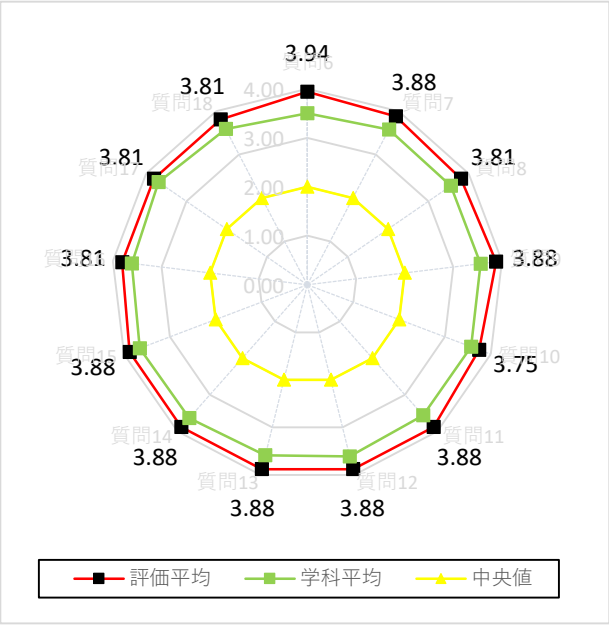
（３）次年度に向けての取り組み

実習の事前準備やOSCE、実習後セミナーなど、学生が主体となって積極的に取り組めるようにサポートする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅲ	18名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

全体的に学科平均を上回る結果であった。

（３）次年度に向けての取り組み

次年度以降も、実習がスムーズに行われるようにオリエンテーションなどをしっかり行う。
また、実習先での指導者の方々にも概ね高評価であったことを折を見てお礼を含めお伝えし、引き続き丁寧な指導をお願いする。